

地域交流センター活動報告書

平成 28 年度



愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」	4
2. 看護実践研究セミナー	11
3. 思春期保健スキルアップ研修会	14
4. 高校生の生命化学体験プログラムえひめ高校生生体機能研究プログラム ー感覚情報の伝導と処理ー	17
5. ブック&メディカルトーク	20
6. おもしろ理科教室（学生祭）	22
7. 地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成	24
8. 看護師&臨床検査技師「お仕事体験」	29
9. 2016 ゆめプロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験	31
10. リレー・フォー・ライフ 2016	34
11. ふれあい赤ちゃん体験	37
III 調査研究	
1. 思春期教育に関する意識調査	42
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	44
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	49
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体への専門職や一般の方の相談対応	51
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	54
5. 行政や各種関係団体に理事・委員等の活動	58
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	73
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	74
VI 地域への施設開放状況	81
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	83
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規定	84
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規定	86
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	88

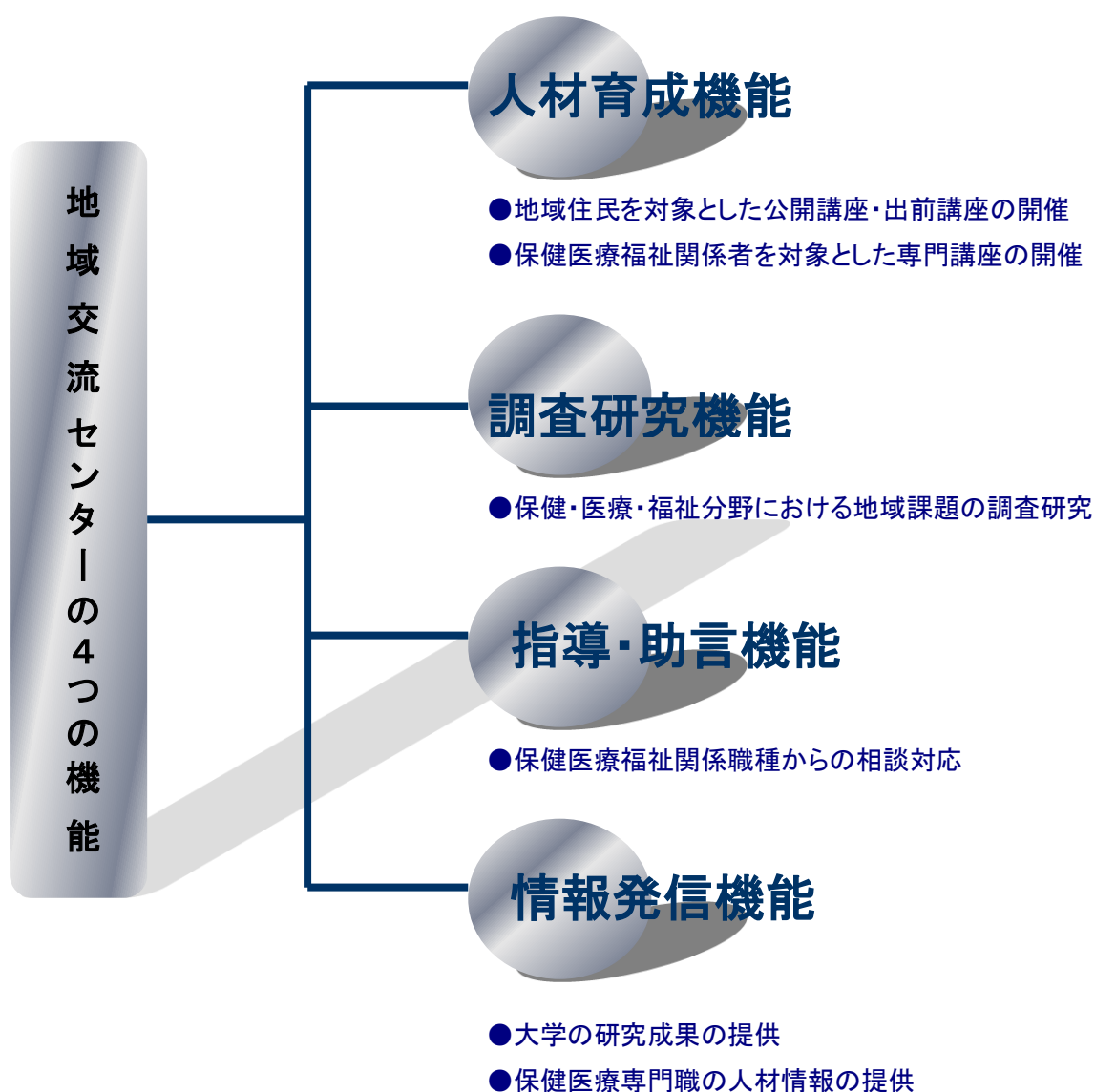
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2 地域交流センターの 4 つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 平成 28 年度第 6 回「ホームカミングデー」

(同窓会木蓮会との共催事業)

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体

本学同窓会（木蓮会）と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：中越講師（地域交流センター員）

実行委員： 豊田センター長、青木准教授、野島准教授、西森助教
（地域交流センター員）

松井講師、藤原助教、宮宇地助教 （看護師分野）

小嶋准教授、井上助教（助産師分野）

田中准教授、窪田助教（保健師分野）

野島准教授、岡村助教（臨床検査技師分野）

4) 事業内容

(1) 日時：平成 28 年 6 月 18 日（土）10：00～12：30

10：00～11：00 全体会・特別講演 11：10～12：30 分科会

(2) 場所：医技大キャンパス 150・160・117・216・217・218 講義室

(3) 参加者数 200 名(内訳：卒業生 86 名、在校生 91 名、教員 23 名)

(4) 実施内容

①全体会：学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院保健医療学研究科説明会

特別講演講師：菅 美樹 氏 愛媛県立衛生環境研究所

テーマ：「卒業生から後輩へのメッセージ ―私の歩んできた道―」



開会挨拶
豊田地域交流センター長



中西学部長による
大学院保健医療学研究科
入学説明



濱崎木蓮会副会長挨拶

講演要旨「卒業生から後輩へのメッセージー私の歩んできた道ー」

愛媛県立医療技術短期大学臨床検査学科3期生で、現在、愛媛県立衛生環境研究所に勤務されている菅美樹さんから「卒業生から後輩へのメッセージ」と題して、ご講演をいただきました。

講演では、学生時代の思い出や、保健所での勤務内容や県立中央病院での臨床検査部門の維持・存続に向けた取り組み、本学大学院保健医療学研究科医療技術専攻における研究成果、そして大学院での学びを活かした現職場での活動等わかりやすくお話いただきました。日頃はあまりなじみのない臨床検査技師の仕事についてとても興味深く語っていただきました。

また、菅さんの臨床検査技師としてのプロ意識やひたむきさ、与えられた環境で最善を尽くしていくという姿勢に強い感銘を受けました。卒業したばかりの人や在校生にとって、菅さんが歩んできた道は、これから医療専門職として成長する皆さんにとって参考になるお話であったと思います。

決してあきらめず自分の理想とする医療職を目指して成長されますことを心から祈っています。



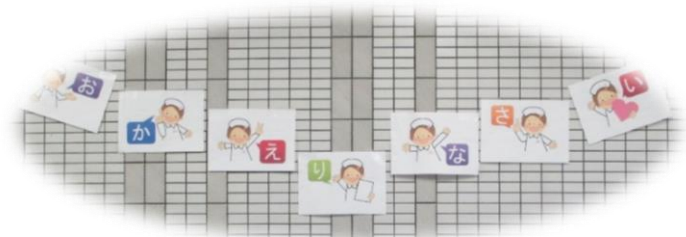
②分科会

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	自己のキャリアアップ ー男性看護師の立場からー	南棟 117	遠藤洋次さん (愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻 助教) 松木克憲さん (愛媛県立中央病院 ICU 勤務)
助産師	クリニックでの助産活動と 助産師としてのキャリア アップ	南棟 216	秋本美加さん (梅岡レディースクリニック)
保健師	地域まるごと健康支援	南棟 217	黒田里美さん (新居浜市保健センター) 高松有希さん (上島町発達支援センター)
臨床検査技師	意外なところで活躍している 臨床検査技師	南棟 218	黒兼義貴さん (コーヴァンス・ジャパン株式会社臨床開発事業部) 柴川美桜子 (愛媛県立こども療育センター)

分科会報告

「看護師分科会」

参加者 卒業生 44 名、在校生 23 名、教員 6 名 合計 73 名



事前申し込みをしていた学生が 63 名であったので、6～7 名のグループとして、1 グループ 7 席で会場の準備をしていた。事前申し込みをしていたが、当日参加しなかった学生が 6 名いたため、実際には 4～7 名のグループ編成となった。卒業年度や病院、学年の異なる学生でグループを編成した。

看護師分科会は「自己のキャリアアップー男性看護師の立場からー」のテーマで、愛媛県立中央病院の松木克憲さんと愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻 助教の遠藤洋次さんの 2 名をゲストスピーカーに迎えた。



松木さんと遠藤さんは、自己の経歴や病院に勤務してからの活動について、自己啓発や人脈をどのようにつくってキャリアアップをしてきたか話をされた。また、遠藤さんは、大学院に進学して教員となり、大学院に進学して学ぶことの意義なども話をされた。



松木さんと遠藤さんの話が終わったあと、ゲストスピーカーの 2 人にもグループに入ってもらって、茶話会を行った。お菓子を食べながら、他施設や他県の卒業生間で仕事の様子やプライベートの話をしたり、在校生が卒業生に病院の情報などを積極的に質問したり、和やかで活発な情報交換ができていた。短い時間であったが、有意義な時間となり、話が尽きない様子であった。

「助産師分科会」

参加者 卒業生 18 名、在校生 22 名、教員 4 名 合計 47 名

まず、野上助産師部会長のあいさつでスタートしました。ご自身の助産師の経験が 20 年を迎え、気持新たに今後も助産師としての活動を邁進したいとの内容でした。現在、助産師を志そうとする若者に対してのエールともとれる内容であったと思います。引き続き、当大学 2 期生の秋本美加さんによる、テーマ：「クリニックでの助産活動と助産師としてのキャリアアップ」の発表がありました。まず初めに今回の発表においてご自身が勤務されているクリニックを、写真を用いて紹介されました。外観に始まり、病室や診察室、妊婦や母親たちに行っている様々なクラス紹介、クリニックならではの食事なども紹介され、分娩する現場で勤務する助産師は、各々でその違いを感じることができた様子でした。また、施設で働くということでは人間関係の良好さを求められますが、スタッフ同士が良好な関係性を築いていることも写真で窺い知ることができました。引き続き、秋元氏自身のキャリアアップについて語られました。学生時代「いいよー」とたくさん言える助産師にあこがれを抱き、卒業後は県立中央病院に入職。助産師として勤務した 2 年間は、新人同士で支えあうこと、また先輩助産師から助言を得ること等から日々、様々な学びや思い、葛藤の中勤務した様子が語られました。しかし、その中で「助産師の責任」について考えさせられる出来事もあり、先輩助産師から得た助言は、自分の未熟さを実感すると共に、今後助産師として活動する自信を無くし、大きな壁が立ちほだかり一旦職を退く結果となった経験が語られました。数年間の充電期間を置き、助産師を客観的に見ることや様々な人からの助言を得ることで、助産師教育から助産師の道を再出発するに至ったとのことでした。

現在は、クリニックで助産師として勤務する一方、大学院で「産後 1 か月までの母親の疲労感と産後ケアニーズの関連」をテーマに研究を進めており、助産師と大学院生の両立を行い、活動的な日々を送っている旨が語られました。

秋元氏の語りの後、6 つのテーブルに分かれ卒業生や助産学専攻科の学生、助産学への進学を検討している学部学生などの交流時間を設けました。助産学専攻科の学生は今後控えている助産学実習に向け、新たな自己課題を見つける機会となりました。また、学部学生は助産師への志したきっかけを先輩方々から聞くことで、自身の今後の道しるべとなったようでもありました。アンケートからも、短い時間ではあったが充実した時間であったことなど満足していただけた内容が記載されていました。今回の会を通して、助産師を志す学生からベテラン助産師まで、また様々な背景の助産師が集まりました。短い時間ではありましたが、各々の実りある時間だったように感じます。



「保健師分科会」

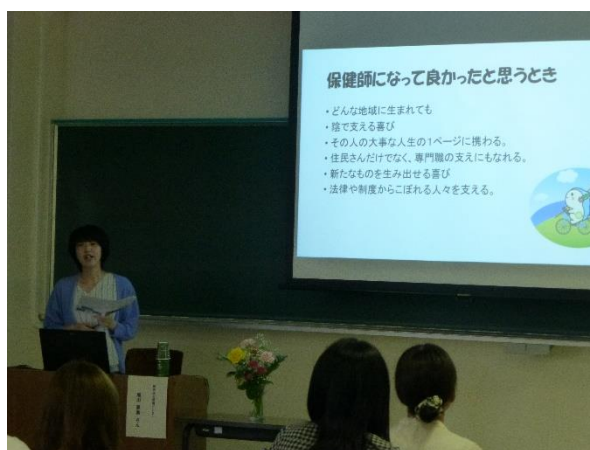
参加者 卒業生 10 名、在校生 16 名、教員 6 名 合計 32 名

保健師分科会では、新居浜市、上島町から卒業生をお迎えし、行政保健師としての活動の歩みを語っていただきました。



黒田さんは、ライフサイクルを通じて関わる保健センターでの事業や取り組み、また、これまでの保健師活動で関わった具体的事例について報告してくださいました。

『その人の大事な人生の 1 ページに携われることや、新たなものを生み出せることから、保健師としての喜びを感じます』と、高松さん。



グループに分かれての交流会では、担当業務や就職活動の話で盛り上がりました。

また、養護教諭をしている卒業生も 2 名参加してくださいました。

「臨床検査技師分野」

参加者 卒業生 13 名、在校生 30 名、教員 6 名 計 49 名



黒兼義貴さん



柴川美桜子さん

講演風景



熱心に聞き入る卒業生と在校生達

黒兼さんの講演では、何故、検査技師として病院や検査センター等に就職しなかったのか。どの時期に CRC という職業のことを知り興味を覚えたのか。そして、実際に就職し CRC という職種について、具体的に語っていただいた。また、新薬開発という業務の実際を紹介いただいた。臨床検査技師として病院・検査センターでの立場とは異なる業務上の苦労と楽しみ、難しさと喜びについて、給与についてもかなり具体的に話していただき、在学生の就職にも参考になったのではないだろうか。

柴川さんの講演では、まず「子ども療育センター」についての説明があり、特殊な疾患の子どもに対する検査の難しさについて語っていただいた。一般病院とは異なった環境の中で、たったひとりですべての業務をこなしている柴川さんに対し感銘をうけた在校生、卒業生も多かったのではないだろうか。

(5) 参加者の反応

① 参加者アンケートの結果（回収率 78% 卒業生 80 名、在學生 76 名）

情報源・・・卒業生①案内文書②教員から③その他（上司の勧め）

在校生①教員から②学内掲示・チラシ③ロコミ

の順で多く回答があった。

講演・・・「とても良かった」57.9%、「良かった」31.0%、およそ 9 割の参加者が心に響く内容であったと回答した。

分科会・・・「先輩・卒業生のお話が聞けてとても楽しかった」、「業務の具体的なイメージができて良かった」、「卒業後の進路選択の参考になった」、「リフレッシュできた」、「若い後輩と話せて楽しかった」、「後輩と交流することで初心に戻れた」等よい評価であった。

その他意見：分科会の時間をもっと取ってほしい。（在校生・卒業生）

講演会や分科会の講演内容について、卒業生のニーズを反映したものを検討してほしい

5) 評価と課題

1) ねらい・成果

卒業生にとって、旧交をあたため、在校生と交流するとともに良い機会であると同時に、在校生や教員との交流によりリフレッシュし、新たな気持ちで仕事に向き合えるきっかけになっていると評価している。在校生にとっては、卒業後の進路選択の参考となる等評価であった。

2) 広報戦略

次年度も卒後 1・2 年生を対象に、職場上司と本人に案内文書を送付する。木蓮会と連携し、同窓会誌から申し込みができるシステムを次年度も継続する。

3) 運営・開催日程

次年度も開学記念日に近い 6 月 20 日前後の土曜日を予定する。特別講演は、学生・卒業生に話をしてほしい人を呼ぶ、講師が卒業生であっても良い。分科会の時間をより多く確保するために、開催時間を早めることを検討する。次年度も木蓮会と共催、木蓮会総会との同時開催とする。

2. 看護実践セミナー

1) 概要

本企画は、愛媛県内において看護の臨床や教育現場で看護に関わっている看護職などを対象に、講師を招いた受講者参加型セミナーを開催することにより、看護職がエコー技術の基本を学習することで、看護技術の発展の可能性を探求する。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

地域交流センター員、看護学科教員

4) 事業内容

テーマ：「看護に役立つエコー技術 初級コース」

(1) 日時：平成 28 年 10 月 15 日（土）9：30～15：30

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学 413 講義室、410 実習室

(3) 参加者数：一般（看護師 11 名、教員 2 名）、学内（教員 7 名）、合計 20 名

(4) 実施者と実施内容：

実施者 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻創傷看護学分野
特任助教 藪中幸一氏

実施内容 講義および演習（少人数でのエコー演習）



(5) 参加者の反応（アンケート結果）

アンケート回収率：

20 名中 15 名から回答を得た（回収率は 75%）。

セミナー参加の目的：（複数回答）

①エコーの基礎知識を学ぶ。 15 名

②エコーの基礎技術を学ぶ。 11 名

③その他 2 名

・エコー所見を具体的に見られるようになるため。

セミナーの目的の達成度：

- ①達成できた。 10 名
- ②やや達成できた。 5 名

セミナーの感想：

- ・講義も実技もとても興味深く楽しく学べました。職場にもポータブルエコーがあるので、訪問診療など活用してみようと思います。
- ・臨床に活かせる内容だったと思います。現場でもエコーの見かたを症状に合わせて考えることができそうですし、将来的に在宅看護に活用できると確信した。
- ・エコーは難しいイメージが強かったが、身近に考えることができると分かった。
- ・災害支援ナースに登録しているので使いこなせるようになると支援の幅も広がると感じた。
- ・解剖学を学ぶ学生さんにリアルなエコーが棒を見せてあげるとさらに学習が深まると思いました。
- ・中級・上級コースもぜひ開催していただきたい。

今後、セミナーで実施して欲しいこと：

- ・今回のような実技のセミナーを今後してほしい。
- ・最新の褥瘡ケアやその予防法などあれば知りたい。
- ・検査データの読み方・臨床看護への活かし方
- ・CT、X-P 画像を看護の実践へ活かす方法
- ・看護協会ではやっていない実践的な臨床にすぐ役立つセミナーをお願いします。

5) 課題と評価

周知の方法について

セミナーの周知は開催日の 2 ヶ月前から大学 HP および学生の実習先、県内の就職先、看護大学、専門学校へ文書で行った。その結果、外部の参加者は 13 名であった。

周知の時期は、勤務希望の時期を考え、昨年より 1 カ月早く行った。周知の方法としては、文書で送付した後に学生の実習先で文書と口頭で再度呼びかけを行った。

セミナーについて

今回のセミナーは、エコーの技術を学ぶことが目的であったため、募集人数を 30 名と少人数制とした。セミナーは 2 部構成とし、午前にエコーの概要について講義を受け、午後から参加者が実施者と被験者を交代しながらエコーを体験した。エコーで見る臓器は血管、膀胱、腸の 3 つに絞った。エコーは 5 台用意し、1 台につき参加者は最大 5 名であったことから、参加者は全員予定していた 3 つの臓器を全て自分自身で画面に映し出すことができていた。余裕をもって演習時間を設定していたため、参加者は繰り返しエコーを使って臓器を映し出したり、予定していなかった臓器を映し出したりと熱心に参加する様子が見られた。また、アンケート結果より、参加者はエコーの基礎知識と技術を学ぶことを今回のセミナーの目的

としており、全員ほぼ達成できたと回答していた。さらには、今回のセミナーの継続を希望する声も多くいただき、参加者に満足していただけたようだった。

今回のセミナーの次回開催を希望する声もいただいたが、12月に本学の基礎看護学講座がセミナー開催を予定しているため、その開催結果を踏まえ、センター事業として、エコーのセミナーを継続するかについて検討していく。

また、セミナーの企画・運営に際し、今後、本学で実施してほしいセミナーの希望を伺う機会として、今回のようなセミナーに参加いただいた方からのご意見をいただいているが、より多くの看護職のニーズを踏まえて内容を検討するためにも、セミナーの希望調査の方法についても検討していくことが必要と考える。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

平成 28 年度思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子ども達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点にそって、他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の市町保健師、小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭、保健主事、思春期保健に関わる保健師、助産師、看護師、保護者等

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

一般社団法人「人間と性」教育研究協議会 えひめサークル

3) プロジェクトメンバー

企画者 : 愛媛県立医療技術大学 中越利佳

メンバー : 愛媛県立医療技術大学 豊田ゆかり

愛媛県中予保健所健康増進課 : 荒木周一郎課長、檜垣裕子主幹

難病・母子保健係 : 出森美和 正岡田江子

感染症対策係 : 稲田美香 仁井田美菜

精神保健係 : 宮内亜希子

一般社団法人「人間と性」教育研究協議会

えひめサークル : 菊池準子、岡田久美

4) 事業内容

(1) 日時 平成 28 年 6 月 25 日 (土) 13:00~15:20

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 117 教室

(3) 参加者数 30 名

(参加者内訳) 養護教諭 : 6、保健師 : 8、助産師 : 2、看護師 : 1、教諭 : 1

学生 : 1、講師及びスタッフ : 11

(4) 実施者と実施内容

①第一部 子ども達の現状と性教育の意義

- 講義「何故、今、性教育が必要なのか？」

講師 菊池準子 「人間と性」教育研究協議会えひめサークル 小学校教諭
松山市教員初任者研修会講師

- 報告「中学生の生活状況と性に関する意識・行動調査」

話題提供者 正岡田江子 中予保健所健康増進課 難病・母子保健係

②第二部 子ども達に伝える力

- 小学校低学年向け模擬授業

講師 菊池準子 「人間と性」教育研究協議会えひめサークル 小学校教諭

- 小学校高学年向け模擬授業

講師 岡田久美 「人間と性」教育研究協議会えひめサークル 養護教諭

(5) 参加者の反応（アンケート結果より）

参加者全員が研修内容について、とても参考になった、参考になったと答えており、性教育の必要性について再確認した研修会となった。また、開催日程も土曜日の午後からを希望している参加者がほとんどを占めた。以下アンケートの自由記載内容である。

- ・ 学習指導要領という言葉を知ると恐縮するばかりでしたが、中身のことや学校で実際に行われている教育の内容を知ることができてよかった。
- ・ 科学的に理解できるように、順序立てて説明することで、興味本位で終わらずに、何を大切にすべきなのかまでわかってもらえるのだということがよくわかりました。
- ・ 基本となるところは同じなので、幼児でも、小学生でも、中学生でも科学的に繰り返し学習していくことが大事だと思いました。模擬授業では、小学生対象でしたが、中学生、幼児期でも参考になる内容なので良かったです。
- ・ 性教育は必要というのはわかっているが、どのように取り組んだらいいのだろうと悩んでいるところもあったが、こんな方法もあるのかと伝える側の工夫が必要だと思った。
- ・ 一方的に伝えるのではなく、子どもたちの答えを引き出すように双方向性に進めること、学習意欲を高められるような教材の工夫も大切であり、興味深く学ぶことができるのだということがわかりました。



講義「何故、今、性教育が必要か」

講師 菊池準子 先生



報告

「中学生の生活状況と性に関する意識・行動調査」

中予保健所 健康増進課 正岡保健師



小学校低学年用模擬授業

講師：菊池準子 先生



小学校高学年用模擬授業

講師：岡田久美 先生



閉会の挨拶

中予保健所 健康増進課 荒木周一郎課長

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から継続開催し、今回で第 6 回目をむかえた。参加者からは、この研修会が性教育を実践していく上で必要であり、今後も継続した開催を望む声が多い。今年度は、「人間と性」教育研究協議会えひめサークルの共催を得て、模擬授業や学習指導要領の考え方等をご講義いただき、より実践的な研修内容となった。

思春期保健スキルアップ研修会は、今後も思春期教育で活躍している講師を招き、より充実した研修会を継続開催する予定である。また、関連機関との連携を強化し、思春期教育が組織的かつ継続的に実践できる拠点としての役割を果たしていくことが望まれる。

平成28年度本学教育研究助成費を受け、今研修会で協力の得られた様々の関連機関の方の意見を取り入れながら、「誰でも、すぐに、簡単にできる性教育教材」を完成させ、教材を本学HPにアップロードした。次年度は、この教材を使用した性教育研修会の開催を予定している。

4. 高校生の生命科学体験プログラムえひめ高校生生体機能研究プログラム ー感覚情報の伝導と処理ー

1) 概要

(1) 目的

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が高いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。また、これまで平成 22 年度～26 年度まで実施されていた「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」（生物コース：講師は本学の教員が努めてきた）は毎回定員の数倍と言う高いニーズがあった。事業終了後、生物担当の高校教員の要望もあり平成 27 年度は本学主催でこの事業を実施した。本年度も、高校生の知的探究心に応えるため、昨年度は消化器系のストレス反応に主題を置くプログラムとしたが、本年度は「ヒトの感覚情報の伝導と処理」というヒトを対象とした実験を行う内容とした。

2) 実施主体 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

(1) 講師 岡村法宜 助教 野島一雄 准教授（地域交流センター員）

(2) 学生ボランティア 臨床検査学科 2 名

3) 事業内容

(1) 日 時

平成 28 年 8 月 10 日（水） 8 月 11 日（木） 9：30～16：00

(2) 場 所

本学北棟 365 講義室 460 医用工学実習室

(3) 参加者

愛媛県立内高等学校生徒 8 名

愛媛県立中等教育学校生徒 5 名 （参加校 5 校）

教員 2 名

4) 実施内容

(1) 開会式

①開会の挨拶 橋本公二 （本学学長）

②スケジュール・注意事項 野島一雄

(2) 講義

①動物実験に関する教育訓練 岡村法宜

②各実習のねらい 岡村法宜

(3) 実習

①ラットの解剖（腹胸部・頭部）

②「視覚刺激・聴覚刺激に対する反応時間の測定」

③「聴性脳幹反応・視覚誘発電位の記録」

(4) 結果のまとめ

(5) 閉会式

①閉会の言葉

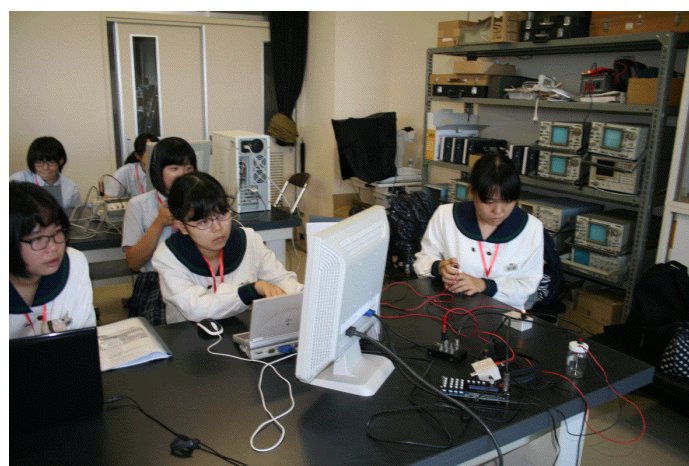
②実験動物追悼式



動物実験に関する教育訓練



ラットの解剖



反応時間の測定



誘発電位の記録



動物慰霊碑の前で

5) 評価と課題

募集定員は、一つの実験を深く掘り下げていくために1班3名で1～4班の計12名とした。応募開始日で募集定員に達した。昨年は募集状況から急遽12名から6班18名まで定員を増やした。しかし、本学教員2名で対応するには限界を超えていたため、今年度はその経験を踏まえて、教員2名で対応する限界は12名と考え、定員に達し次第募集停止の措置を取った。毎回、多くの高校生のからの応募に応えることが出来ない現状を考えると、実施時期・実験内容、教員の負担増などの問題点もあるが、複数回の実施などの方策を考えていく必要がある。

6) 成果の発表

本実験の発表であるが、高校生のスケジュールもあり、全員が集まって発表会を開催することは困難である。そこで、昨年と同様インターネットによる模擬発表会という形で行った。

5. ブック&メディカルトーク

1) 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員より看護に関する図書の紹介と本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に、看護や医療などを考える機会とする。

2) 実施主体

愛媛県立図書館と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立図書館：東 智子司書

愛媛県立医療技術大学：高田 智世講師

4) 事業内容

(1) 平成 28 年 6 月 23 日 (水) 14 : 50 ~ 16 : 30

(2) 県立松山中央高等学校 会議室

(3) 2 年生徒 (医療看護系コース選択) 34 名

教員 3 名

合計 37 名

(4) 実施内容

[ブックトーク] (県立図書館：東 智子司書) 14 : 50 ~ 15 : 30

- ・看護系の仕事をテーマに、『選んだ理由 (ワケ) は?』と題して 6 冊の本を紹介された。看護師志望の生徒が半数以上おり、残りは理学・作業療法士や助産師などを希望していた生徒たちで、34 人中男子は 3 人だった。看護師の仕事と関連した本を中心に揃えて頂いた。

[メディカルトーク] (県立医療技術大学 保健科学部 臨床検査学科 講師 高田 智世) 15:40 ~ 16:30

- ・メディカルトークは、臨床検査学科の高田講師から、「遺伝子検査で何がわかるか」という内容で基礎的な話題から現在実施されている検査について話された。遺伝子とは、すべての生物の細胞の核にある染色体を形成する DNA を本体とする遺伝情報のことで、遺伝子検査はどの細胞でも検査ができ、疾患によっては診断・治療のみでなく予防医学的な利用に役立っていること、医療現場で用いられる遺伝子検査では、染色体異常や遺伝性疾患、がんの診断や感染症の病原体の同定などができることなどを話された。

更に、これからの遺伝子検査は益々進歩し、将来、今の高校生の皆さんが医療系の仕事に就いた時には今まで行ってなかったような遺伝子検査が当たり前になっているかもしれないと、最新の臨床検査の現状を話された。

(5) 参加者の反応

- ・ブックトークでは、看護職以外の学生も真剣にナイチンゲールが看護職に興味を持った経緯や医療についての本について、真剣に興味深く聞いており更に医療について興味を持ちより一層、医療人を目指す思いを強くしたように感じた。
- ・メディカルトークでは、直接、検査をすることがなくても医療人として、また日ごろの生活にも関連する内容もあったため参考になったと思う。

5) 評価と課題

県立図書館のブックトークと本学教員によるメディカルトークは、医療を目指す高校生にとって、様々な書籍と専門的な医療・医学に関する講義を通して知識を深められる機会となるため、有意義で効果的な企画であると考えられる。生徒たちも関心を持って聞いていたので、今後も継続的に取り組む予定である。



6. おもしろ理科教室（大学祭）

1) 概要

地域貢献の一環として地元の子どもを対象に、理科実験を通して科学のおもしろさや興味を惹起することを目的として、親子体験型の理科教室を学生祭と同時に開催した。教員と学生ボランティアとの協力の元、光をテーマとし体験学習を実施した。主題は一日目が可視光の振動、二日目が紫外線・反射をとし、子どもが親しみやすい内容となるように工夫した。

2) 実施主体

主催：愛媛県立医療技術大学地域交流センター

後援：学生ボランティア 11 名（一部 6 名，二部 5 名），医技大祭実行委員会

3) プロジェクトメンバー

第一部：佐川輝高（臨床検査学科基礎検査学講座）

学生ボランティア 6 名

第二部：佐川輝高（臨床検査学科基礎検査学講座）

学生ボランティア 5 名

4) 事業内容

（1）日時：第一部 平成 28 年 10 月 22 日（土）13：00～15：00

第二部 平成 28 年 10 月 23 日（日）13：00～15：00

（2）場所：本学 北棟 359 実験室

（3）参加者数：幼児・児童と保護者等 第一部 45 名、第二部 56 名

（4）実施内容

① 第一部：「見える光 見えない光 ーちょっと不思議にー」

簡単な光の物理的性質の説明の後に、偏光板で身の回りのものを観察した。まず、光の反射と偏光板の関係を体験した。次に、偏光板を用いて、水面、鏡、金属板などを用いて偏光と反射の関係を観察した。廊下に出て太陽の位置と偏光板の関係を体験し、古代の航海に偏光が用いられたことを学習した。プラスチック製品等を用いて物の歪みなどが偏光を用いることで観察が可能になることを体験した。次に、子どもたち自身の腕などを偏光で観察することにより、皮膚表面の毛細血管の不均一性などを観察することが可能となることを体験、同時に、皮膚の構造、アレルギーなどの炎症と毛細血管の見え方などを学習した。最後に、偏光板を用いてブラックホールの玩具を作製し、お土産とした。

② 第二部：「見える光 見えない光 ーちょっとオシャレにー」

紫外線の医療での利用や工業的利用を体験した。まず、愛媛の地質について学習の後、河原の砂からガーネットを採集。これをUVレジンで包埋。アクセサリ作りを通して紫外線の工業的利用を体験した。UVレジンが硬化する時間内に、簡単な光の物理的性質の説明と紫外線の医療的利用について体験した。最後に、光の反射の説明の後に、万華鏡の作製を行った。成果物はすべてお土産とした。

(5) 実施風景

10月22日(土) 見える光 見えない光 ーちょっと不思議にー



10月23日(日) 見える光 見えない光 ーちょっとオシャレにー



5) 評価と課題

- ① 第一部：偏光は目ではっきりと観察できるので、参加者の感動は大きかったようであった。ただし、最後の工作を先に行った方がより参加者からの興味が引けたのではないかという反省点もあった。
- ② 第二部：河原の砂からガーネット探すということ自体、子どもから大人まで夢中になるものがあつたようであつた。万華鏡作りも根強い人気がある項目なので参加者は楽しめたようであつた。しかしながら、ひとつひとつの作業時間がかかるわりに参加者が多く、ボランティア3人体制では作業を回しきれないところがあつた。

7. 地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成

1) 趣旨

本学と西予市と連携して行う地域資源の乏しい農村型の地域包括支援システム構築のための、人材育成プログラム開発及び地域包括ケアシステム構築支援を 27 年度から 29 年度の 3 か年計画で実施する。本年度は 2 年目である。

2) 実施主体

愛媛県・愛媛県立医療技術大学・西予市

3) プロジェクトメンバー

大学、西予市関係部局、関係団体等の代表者で組織する。そのための組織として人材育成事業推進会議を行い、その部会として、人材育成事業部会と地域包括ケアシステム構築支援部会をおく。

4) 事業内容（内容の詳細は別紙報告）

（1）人材育成事業部会及び開発会議の開催状況

第 1 回：平成 28 年 7 月 11 日(月) 16:00～17:30

- 議題 ①地域包括ケアシステム人材育成支援事業の組織について
②平成 27 年度事業実施報告並びに平成 28 年度事業方針及び事業実施計画
③第 1 回研修会について
④その他

第 2 回：平成 28 年 9 月 15 日(木) 16:00～17:30

- 議題 ①第 1 回研修会の開催結果について
②第 2 回・第 3 回研修会について
③その他

第 3 回：平成 28 年 11 月 4 日(金) 15:00～16:30

- 議題 ①第 2 回研修会の開催結果について
②第 3 回・第 4 回研修会について
③その他

第 4 回：平成 28 年 12 月 20 日(火) 16:00～17:30

- 議題 ①第 3 回研修会の開催結果について
②第 4 回・第 5 回研修会について
③その他

第 5 回：平成 29 年 2 月 10 日(金) 15:00～16:30

- 議題 ①第 4 回研修会の開催結果について
②第 5 回研修会について
③その他

第 6 回：平成 29 年 3 月 29 日(水) 16:00～17:30

議題 ①第 5 回研修会の開催結果について

②平成 28 年度地域包括ケアを考える研修会の開催結果について

③今年度人材育成事業部会の振り返り及び次年度の事業展開について

④その他

(2) 人材育成プログラム開発を目途とした研修会の開催状況

平成 28 年度の研修は、在宅ケアを支える人材（介護職・看護職・介護支援専門員等）のケア技術の充実・向上を目的とするプログラムに焦点を当てて計画・実施した。

第 1 回

①開催日時・会場・募集人員

日 時	会 場	募集人員	参加者
8 月 18 日(木) 13:00～16:00	西予総合福祉会 松葉寮 1F 多目的ホール	30 名程度	44 名
8 月 19 日(金) 9:00～12:00	西予市野城総合福祉協会 野城ふれあい館 2F	30 名程度	33 名

②プログラム

①講義「ポジショニングの考え方と方法・技術」

②実技演習

演習 1：臥位×動かす (with スライディングシート・ポジショニンググローブ)

演習 2：臥位×支える (on ポジショニングピロー)

演習 3：座位×動かす (by ヒップウォーク)

講 師：愛媛県立医療技術大学 看護学科准教授 窪田 静

実技指導：愛媛県立医療技術大学 看護学科 教員 5 名

第 2 回

①開催日時・会場・募集人員

日 時	会 場	募集人員	参加者
10 月 8 日(土) 13:00～16:00	西予市立西予市民病院 3 階 大会議室	100 名	64 名

②プログラム

講義 1：「人々の“尊厳と自立(律)”の考え方を生活支援に活かす」

講師：愛媛県立医療技術大学 客員教授 宮内 清子

講義 2：「人々の“尊厳と自立(律)”を実現するコミュニケーションとは」

講師：愛媛県立医療技術大学 看護学科准教授 岡田ルリ子

演 習：「実践事例を通して対象者との関わり方を考えてみよう」

演習指導：愛媛県立医療技術大学 看護学科等 教員 4 名

第3回

①開催日時・会場・募集人員

日 時	会 場	募集人員	参加者
11月11日(金) 13:00～16:00	西予市教育保健センター2階 集団指導室	30名	29名
11月12日(土) 9:00～12:00	西予市野城総合福祉協会 野城ふれあい館2F	30名	28名

②プログラム

ア. 講義「からだの外からここまで分かる！

～みる・はかる・ふれる技術のポイント～」

イ. 実技演習

演習1：皮膚の観察時の留意点・皮膚の温度・色・むくみの観察

演習2：体温測定時の留意点・腋窩での体温測定

演習3：血圧測定時の留意点・上腕での血圧測定

講 師：愛媛県立医療技術大学 看護学科講師 徳永なみじ

実技指導：愛媛県立医療技術大学 看護学科 教員 3名

第4回

①開催日時・会場・募集人員

日 時	会 場	募集人員	参加者
1月14日(土) 13:00～16:00	西予市立西予市民病院 3階 大会議室	30名	38名

②プログラム

講義・実技演習

ア 「口から食べる」ために知っておきたい基本知識

イ あなたの口の機能はどうですか？

試してわかる！人によって違う咀嚼回数、嚥下回数など

ウ 『ば・た・か・ら』の意味知っていますか？ 効果的な『健口体操』

講 師：愛媛県立医療技術大学 看護学科助教 江崎 ひろみ

実技指導：愛媛県立医療技術大学 看護学科 教員 5名

第5回

①開催日時・会場・募集人員

日 時	会 場	募集人員	参加者
2月18日(土) 13:00～16:00	西予市教育保健センター 2階 集団指導室	40名程度	38名

②プログラム

講義・実技演習：

ア フットケアの重要性

イ フットケアの実際〈爪と皮膚のケア〉

ウ フットケアの実際〈足の機能を高めるリハビリテーション〉

講 師：愛媛県立医療技術大学 看護学科講師 永井 さつき

実技指導：愛媛県立医療技術大学 看護学科 教員 2名

西予市内 糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士 5名

第6回

①開催日時・会場

日 時	会 場	募集人員	参加者
3月11日(土) 13:00～16:00	愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール	150名程度	175名 (関係者23名含)

②プログラム

・基調講演 テーマ：

「健康づくり・介護予防の取り組みにおける地域力・住民力の意義とすすめ方」

～“高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける”を実現するために～

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長 新開 省二 先生

・実践活動紹介

テーマ：「養父市地域一体型健康づくりによるフレイル予防の取り組み」

～元気の余力のおすそわけ大作戦～

兵庫県養父市健康福祉部健康課 保健師 吉田 由佳 先生

(3)「在宅ケアを支える人材のケア技術の充実に向けた研修会」評価に係るアンケート調査の実施（詳細は別紙報告）

①第1回から第6回の各研修に関する参加者へのアンケート調査実施（詳細は別紙）

②28年度1年間の研修に関する施設部門責任者及び研修受講者へのアンケート実施（詳細は別紙）

*研修受講者：210名（実人員）

*研修者が所属する職場のケア部門責任者：54ヶ所のアンケート配布。

①②は、28年度の研修活動評価及び次年度の活動計画のためのアンケート実施を行った。すべての調査において研修内容は充実しており、責任者・受講者共に満足 of いく内容

であったと評価を得た。今後はケア技術向上のための、施設内指導者の育成もあわせ、研修教材の検討を実施していくこととした。

(4) 地域包括ケアシステム構築支援会議の開催状況

旧町単位で1地区を選定、65歳以上の型に日常生活・興味関心に関する把握調査を実施し、その分析等をアドバイスした。

(5) 研修会の様子

第1回研修会



第2回研修会



第3回研修会



第4回研修会



第5回研修会



地域包括ケアを考える研修会



8. 看護師&臨床検査技師「お仕事体験」

1) 概要

砥部町の子育て支援に関わる関係者と子ども・親など町民一人ひとり、および団体・企業が協力し、地域社会全体で、子育て・子育てを応援することを目的とする。“とベキッズお仕事体験”では、子どもたちに様々な職業を体験してもらい、働くことの喜びを感じ取ってほしいと企画・開催された。本年度は13のお仕事体験が実施された。

2) 実施主体

主催：NPO 法人とベ子育て支援団体 ぽっかぽか

3) 事業内容

(1) 日 時：平成28年6月26日(日) 13:30～16:30

(2) 場 所：砥部町中央公民館

(3) 参加者：保育所・幼稚園・小学校の子どもとその家族

(4) 実施者：愛媛県立医療技術大学地域交流センター（臨床検査ブース）

北尾孝司准教授 高田智世講師 岡村法宜助教

(5) 記 録：地域交流センター員（野島一雄）

(6) 参加人数：基調講演 親子122組

お仕事体験 子ども170名（全体で）

(7) 実施内容

①1回のお仕事体験は30分、休憩をはさみ3回実施した。

②各回の参加人数は10名（年少～小4まで）

③簡易白衣を着用し、講師（高田）による「臨床検査って」「臨床検査技師って」という内容でお仕事紹介を聞いた後、3つのコーナーでそれぞれ体験して貰った。

ア 体の表面の温度を測る：熱画像診断装置を用いて、ドラえもんの人形を用いて人形の中に仕込まれた微小発熱体に電流を通じ、どこが暖かくなったかを探る実験により、視覚的に温度変化を感じてもらった。また子ども自身の顔を中心に熱画像診断装置で撮影した。

イ 血糖値のことを知る：血糖値の高い溶液と低い溶液を用いて、試薬による反応を観察して、保護者とともに血糖値検査を経験してもらった。

ウ 手のばい菌のことを知る：子どもにも観察出来るよう、シャーレの中の培地に菌を培養し、手についた菌を観察してもらった。また染色したブドウ球菌を顕微鏡で観察出来るコーナーを設け、保護者とともに観察してもらった。

(8) 参加者の反応および今後の課題

昨年度までは臨床検査技師と看護師 それぞれのブースを設けて「お仕事体験」を実施してきたが、今年度から臨床検査技師と看護師が隔年でブースを設けることとし今年度は、臨床検査技師の仕事について3つのコーナーを設け体験してもらった。3つのコーナーでの体験での反応は、血糖値のことを知るコーナーでは、血糖の濃さによって反応色の違いに、手のばい菌を知るのコーナーでは、菌を培養したシャーレを見て驚いた

り、細菌を顕微鏡で見て驚いたり、体の表面温度を知るコーナーでは、自分の顔でも温度の違いがあることを発見したり、子どもたちの反応は良かった。

実施内容は昨年と同じであったため、その準備等に手間取ることはなかった。対象年齢が低いことから、反応は早いこと、視覚に訴えることが効果的であると考えられる。

4) お仕事体験の様子



9. 2016 子どもの夢プロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験

1) 概要

難病や障害をもつ子どもと家族を支援する団体である NPO 法人ラ・ファミリエが、ファミリーハウスあいなどの啓蒙・広報活動の一環として、子ども達が将来社会の一員として育つことを願い、子ども達の将来の夢や仕事につながる医療関係情報を提供し、子ども達が主体となって参加し夢や仕事を考える機会となる事業を行った。また、健康教育や病気や障害についての相談の場となるような機会も提供した。

愛媛県立医療技術大学は、お仕事体験ブース（病院のお仕事体験）の内、看護師部門、助産師部門、臨床検査技師部門の 3 部門を担当した。

2) 実施主体

主 催：特定非営利活動法人ラ・ファミリエ

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学ボランティア

看護学科：枝川千鶴子、岡田ルリ子、青木光子、井上明子、伊藤美香

臨床検査学科：野島一雄

学生：看護師、助産師ブース 8 名、臨床検査技師ブース 2 名 計 10 名

4) 事業内容

(1) 日時：2016 年 8 月 21 日（日） 10：00～17：00

(2) 場所：エミフル MASAKI 1 階 グリーンコート

(3) 参加人数

昨年より激増し、看護師ブース：229 名、助産師ブース：238 名、臨床検査技師ブース：127 名、のべ 594 名の参加者があり、たいへん盛況であった。

(4) 実施者と実施内容

① 教 員（看護学科）：枝川千鶴子准教授、岡田ルリ子准教授、青木光子講師、井上明子助教、伊藤美香助教

（臨床検査学科）：野島一雄准教授

ボランティア：学生 10 名（看護師、助産師ブース 8 名、臨床検査技師ブース 2 名）

② 実施内容

・お仕事体験ブース（病院のお仕事体験；②～④を愛媛県立医療技術大学が担当）

ア 医師：診察・超音波検査

イ 看護師：血圧測定、聴診体験、包帯を巻く、など

子どもたちが看護師となって血圧測定、聴診体験、包帯を巻く体験を行った。血圧測定は難しそうであったがマンシェットを巻くのを手伝っても

らいながら、行った。聴診体験では、自分の呼吸の音や心臓の音を体験してもらった。心臓の音が聞こえると「聞こえた」といって喜んでいた。包帯体験では、家族の方やボランティア学生の腕に包帯を巻き、上手に巻けたことを褒められるとうれしそうな表情となっていた。また、ピンクやブルー・ホワイトの白衣の中からお気に入りのものを試着し、看護師さん体験をした。保護者は白衣を着ている姿を写真にとっていた。

ウ 助産師：赤ちゃん抱っこ おむつ交換 寝衣交換、など

新生児期の児と同様程度の沐浴人形の抱っこやおむつ交換、寝衣交換を実施した。子どもたちの成長発達に応じて行う項目を検討したり、マジックテープで作成したボタンを使用した衣類などを用いて可能な限り子どもたちが実際に行え、達成感が得られるような体験とした。子どもたちのみならず、その母親や父親、祖父母もその様子を見ることで、改めて子どもたちの成長を実感している様子であった。子どもたちが実際に体験したのちは、子どもとその家族が顔を見合わせて笑顔となり、家族のだんらんの時間ともなっている様子であった。

エ 臨床検査技師：サーモグラフィーによる体温測定

臨床検査技師：サーモグラフを使った体表面（顔）温度の測定
熱意画像診断装置を使って、顔の表面温度測定を行った。顔面の温度を測定し、その結果を画面上で説明した後プリントアウトした。温度の変化を見てもらうために氷で顔面の一部を冷やし、温度がどれほど下がるのかを観察し、元の温度にどれくらいの時間で戻るのかを体験してもらった。保護者の方には、熱画像が得られる原理を簡単に説明した。

オ 救急救命士：救急車・救命士の仕事 AED の利用方法、救急車展示

カ 聖カタリナ大学短期大学部保育学生イベント：子どもの遊び体験

キ 相談ブース：子どもの病気や障害の相談、就労に関する相談、小児慢性特定患者に関する相談

5) 評価と課題

(1) 看護師ブース・助産師ブース

看護師ブースでは、一人に対して、血圧測定、聴診体験、包帯巻きの3項目を全て体験してもらったため、時間を要した。今年度は、一度に多くの子どもたちが集ったため円滑に交代できず待ち時間が生じていた。待ち時間の減少のためには、項目別に席を設けて、関心のある項目を選択してもらうなどの工夫が必要であると考えた。

各ブースの受付の担当者を決めていたことから、助産師ブースはスムーズに案内することができた。しかし、受付表に記載されている項目が漢字で記載されていたため子どもたち自身が記入するには、解説が必要であった。また、受付表が1部だけだったため、ブースの受付で列になっていることもあった。そのため、クリップボードを余分に配布いただいたほうが、よりスムーズに各ブースの受付が終了するのではないかと思われた。

(2) 臨床検査技師ブース

今年度は開始予定時刻の 20 分ほど前から準備を始めた。開始時刻とともに受付前に列が出来始めたが、教員 1 名と学生ボランティア 2 名で、受付・撮影・説明と分担して対応した。観察・印刷と若干時間を要し、列が長くなる時間帯もあったが、大きな混乱や事故もなく、スムーズに対応が出来た。体験したほとんどの子どもが、自分の顔の温度色に興味津々で、子どもらしい質問に学生が立ち往生する場面もあった。保護者の反応も良かった。午後からプリントアウトすることが出来なかったのも、予備的な機器・装置も含めて来年度も少し工夫をする必要があると思われるが、同じ項目でも良いのではと考える。

いずれのブースにおいても、子どもや保護者の方々が関心を持って楽しそうに様々なお仕事体験に取り組んでおり、大盛況であった。

しかし、昨年の倍近い参加人数を昨年と同様の人数で対応した教員やボランティア学生は、シフト表で休憩を取ってはいたが、10 時～17 時という長時間の対応はかなり負担であった。ボランティア参加者が、午前と午後で分担できるようにボランティア学生の人数を確保することが課題である。また、企画内容は、臨床検査技師部門が体験内容を刷新して取り組んだように、今後もより安全で関心が持てる内容を検討していく必要がある。



10. リレー・フォー・ライフ 2016

1) 概要

がん患者・家族、支援者が集い 24 時間をともに過ごすことにより「がん」に関する正しい知識と「がん患者・家族」への理解を深め、地域社会全体でがんについて考える契機になることを目的とするリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 えひめのチャリティ活動に、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者と時間を共有する。

2) 実施主体

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 えひめ実行委員会

3) 参加メンバー

教職員

学生

4) 事業内容

(1) 日時：平成 28 年 10 月 1 日（土）、2 日（日）12：00～12：00

(2) 場所：城山公園 堀之内地区 ふれあい広場

(3) 参加者数：がん患者、家族、支援者、一般の方 約 2,680 名

(4) 実施内容：

①リレーウォーク

②ルミナリエバック

③日本対がん協会への寄付

④本部実行委員会参加（3～9 月毎月 1 回平日夜）

⑤当日クイズラリー実施

⑥学内結団式 平成 28 年 9 月 30 日（金）

5) 評価と課題

本事業は、平成 22 年から連続して 7 年目の開催となるがんについて考える機会となるイベントである。

本学の教職員チームのリレーウォークへの参加は 35 名であった。学生の本部役員は 5 名、学生ボランティア 40 名、学生のリレーチームは 47 名であった。

参加者はがんサバイバーをはじめ県内の医療関係機関が多く参加し、雨上がりの猛暑のなか開催された。



横断幕とフラッグとたすきを持ってリレーの
出発です。



学生チームも頑張ります



横断幕とフラッグとたすきを持って学生と教職員が一緒になってリレーを続けます。



リレーを交替してテントで休憩します。



参加チームの紹介があります。



夜になって、ルミナリエに点灯されセレモニーが行われました。



リレー後の記念写真です。

1 1. ふれあい赤ちゃん体験

1) 趣旨

少子化問題に対応するため、大学生を対象に子ども・子育て支援、少子化対策に関わる機運の醸成に取り組む。赤ちゃんふれあい体験では、町内の学校において、学生たちが乳児及びその保護者とのふれあい体験・交流を通じて少子化対策への取組の重要性について考える。結婚から妊娠・出産・育児に至る前向きな気持ちを持つよう支援するとともに、子ども・子育て支援に積極的に協力していけるよう働きかけることを目的とする。

2) 実施主体

砥部町

3) プロジェクトメンバー

地域交流センター長・砥部町・NPO 砥部町子育て支援団体ぽっかぽかの代表者で組織する。

4) 事業実施内容

(1) 開催日時：平成 28 年 12 月 14 日 10 時 00 分～11 時 30 分

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学地域実習室（たたみの部屋）

(3) 参加者：大学生 10 名(2・4 回生) 先生 1 名

スタッフ（とべまほうのつえ 1 名・ベビータッチケア講師 1 名ぽっかぽか 7 名）

親子 12 組（大人 12 名・赤ちゃん 12 名・幼児 5 名）

(4) 実施内容：9 時 00 分 スタッフ現地準備

9 時 45 分～ 親子・大学生受付(北校舎 1F 廊下)※大学生は事前アンケート記入

10 時 00 分～ あいさつ 事業説明：介護福祉課政岡様 進行：村上
大学生と赤ちゃんの交流

①全体で手遊び・おもちゃの紹介

②赤ちゃんとのふれあい（各グループ）

※3 班（親子 4 組・大学生 3～4 人）

10 時 35 分～ 赤ちゃん保護者向けアンケート

10 時 45 分～ 感想：参加者宮岡様・大学生 2 名

あいさつ：愛媛県立医療技術大学 地域交流センター長
豊田ゆかり教授

10 時 50 分～ 握手をして親子解散

11 時 00 分～ 大学生と子育て支援者の座談会

①少子化の現状と砥部町子育てについての情報提供

- ②子育て中の家庭の声と現状
- ③どうしたら少子化対策につながるのか
- ④このような子育て支援が必要ではないか

<活動の様子>



5) アンケート結果

<赤ちゃん親子の感想>

- ・ 今回は、出産や育児の話がたくさんできて、学生さんもすごく興味を持って聞いてくれたので、私も楽しい時間が過ごせた。
- ・ 出産や妊娠についても、興味深く聞いてもらえてうれしかった。実習を重ねている分、子どもの扱いも安心できた。
- ・ 家にいることが多いので、お友だちと触れ合えてよかった。
- ・ 学生さんから、積極的に質問があつてよかった。
- ・ 自分の将来がすぐそこにあるせいか、話の内容が濃く、もっと時間がほしかった。とても充実した時間だった。
- ・ 子どもが好きなんだなと思った。和みました。ありがとう。
- ・ 大学生のお話も聞くことができてよかった。
- ・ あっという間だったが、みなさんやさしくて、すばらしい専門職になるんだろうと思う。
- ・ たくさんお話してくださり、ほぼプロだなあと感じた。また参加したい。

<大学生のアンケートより>

Q. 育児に対する多少不安・不安、具体的にどんな不安がありますか？

- ・ 仕事と子育ての両立ができるか不安。
- ・ うまく育児できるのか。
- ・ きちんと成長・発達を遂げられるのか。仕事を続けながら、子育てできるか。
- ・ 初めてのことで、子どもの状態に合わせて、どうしてあげられるのが正解かわからないと思うこと。
- ・ 子育てをする地域や地元や家族との距離感・サポート。
- ・ どんな育て方をしたらいいのか不安。
- ・ 自分が子どもを育てる事がちゃんとできるのか、漠然とした不安がある。仕事に

復帰するとしたら、仕事しながら育てられるかなど・・・。

- ・ 関わり方、遊び方、叱り方。いつもと様子が違うなというところに自分が気づけるか。
- ・ 仕事や家事との両立や子供が健康に成長していくかどうかについて。

Q. 赤ちゃんに関わる中で困ったことはありましたか。あった人は、具体的に何に困りましたか。

- ・ お母さんが大好きな子だったので、抱っこしたりすると「お母さん」と泣いてしまう。
- ・ 泣きだしたとき。

Q. 今後、結婚・妊娠・出産・育児に関してどのような話がききたいですか。

- ・ 仕事と両立できるのか。結婚を決めたタイミングや妊娠中の思い、育児の相談相手など。
- ・ 結婚や妊娠を望む時期や周りの支援について。
- ・ 育児のコツ。全てにおいて事前にしとけばよかったこと。
- ・ 結婚するタイミング。(年齢・仕事して何年目にするか) 子どもの人数はどう考えているのか(夫婦で話し合い)
- ・ 壁にあたった時の対処法やどのようにしているか。協力体制は・・・。
- ・ 困ったこと。嬉しかったこと。
- ・ 妊娠、出産、育児の過程で、困ったこと、知っていてよかったこと。結婚してから妊娠するまでの期間について。
- ・ 子育てしてく中で必要となる社会資源・援助。
- ・ 子育てをしながら、仕事している人の話が聞いてみたい。

Q. 少子化対策につながる取り組みとしてどんなものが考えられますか。

- ・ 不安の解消(実話を聞く機会・話を知る機会・パートナーと出会うきっかけ)
- ・ こういった実際に子どもを子育てされているお母さんとの触れ合い、知っていく機会が少しずつ少子化対策にもつながると思う。
- ・ 子どもの人数が増えるごとに、支援金がもらえたり、育児に関する休みなどがとりやすくなる制度。
- ・ 少子化に対して、テレビやメディアなどで取り上げる。
- ・ 子育てのしやすい環境づくり(保育所の増加や料金) 出産にかかる費用の負担軽減。仕事場の理解向上。
- ・ 親同士、子ども同士のふれあいの場を増やし、悩み事や不安を話あえる機会を持つこと。
- ・ 兄弟がいる母親、その子どもたちをこのような機会を設けて出会うことで、子どもが2人以上いることの楽しさなど、知ってもらいたいかなと思った。

- ・ このような事業を増やして、お母さんや赤ちゃんが過ごしやすい環境を作る。小学生の頃から赤ちゃんとの触れ合いを増やす。
- ・ 子どもを育てやすい環境作り。(産休・育休・保育所・地域との連携)
- ・ 子育て支援の充実、若い頃から将来をイメージできる事業。(仕事と出産・育児を一緒に考えられるように)

Q. 地域や職場に会ったらいいなと思う子育て支援はありますか。

- ・ 職場復帰をしやすい支援。
- ・ 集まる機会をもうける。
- ・ 同じ歳の子を育てる方と触れ合える職場にある保育所。
- ・ 託児所
- ・ 子どもを預かってくれる場所、相談にのってくれる場所。
- ・ お母さんが自分の好きなことができる時間を作れるように、一日のうちに一時間だけでも預かってくれるような施設。
- ・ 託児支援、遊び方、ふれあい方の教室。
- ・ 相談し合える環境。
- ・ 困ったときに相談にのってもらえたり、息抜きができるような場があれば・・・と感じた。
- ・ 地域のお母さん達と触れ合える機会、病気の子どもでも預かってくれる24時間体制の保育所。

6) 評価

学生の授業との関係で寒い時期しか事業実施日時が合わず、時間を確保することが難しい。しかし、事業参加者からの評価はアンケート内容にもあるように参加して良かったと評価が高い。

Ⅲ 調査研究

1. 思春期教育に関する意識調査

1) 趣旨または概要

(1) 目的

本学地域交流センターでは、愛媛県中予保健所と共同して平成 25 年度から思春期保健スキルアップ研修会を毎年開催している。他機関と連携・共同し、組織的かつ継続的に性教育を主たる目的とした思春期教室を実施するための拠点づくりを目的として、開催されている。この研修会を通じ、各学校で実施されている思春期教室には学校格差があり、継続して思春期教室が実施できている学校にはそれぞれの工夫があることが明らかになった。

本研究では、そのような思春期教室が継続的に開催できている学校を対象とし、小・中学校で行う思春期教室が継続的に実施できるための要件を明確化することを目的として実施した。

(2) 対象者

インタビュー調査の同意が得られた教諭、養護教諭、保健師

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

メンバー 愛媛県立医療技術大学 豊田ゆかり、田中美延里

愛媛県中予保健所健康増進課：荒木周一郎課長、檜垣裕子主幹

難病・母子保健係：出森美和 正岡田江子

感染症対策係： 稲田美香 仁井田美菜

4) 研究方法

研究同意が得られた対象者 9 名に対し、フォーカスグループインタビューを実施した。インタビューの内容は思春期教室立ち上げのきっかけと思春期教室を継続させるために必要なことである。インタビューを録音し、逐語録を作成後、一文の内容がわかるように単位化し、類似性に基づいて分類し、質的統合法を用いて分析した。データ分析の信憑性確保のために質的研究の経験をもつ研究者と 3 回分析を繰り返した。なお、本研究の実施にあたり、本学研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号 16-001）。

5) 結果・評価

本研究結果は、第62回四国公衆衛生学会総会にて発表した（第62回四国公衆衛生学会総会抄録集 p 29）。また本研究により得られた知見を論文にまとめ、四国公衆衛生学会雑誌第62巻1号 p 127—134、2017に掲載された。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
中西純子	愛媛県保健福祉部生きがい推進局長寿介護課&障害福祉課	平成 27 年度介護職員等によるたんの吸引等のための研修実施委員会（特定の者及び不特定の者）において、研修の企画、準備、運営、実施 試験問題の作成、実施、合否判定に携わった。	県内の介護職員
野本百合子	愛媛県立病院	平成 28 年度県立病院看護職員合同研修 県立中央病院に所属する 4 病院教育担当者から依頼を受け、主に県立 4 病院の就職後 3 年目に該当する看護職員を対象とする「看護過程（基礎Ⅲ）」の研修企画への助言及び講義を実施するとともに、グループワークへの助言などを行った。	愛媛県立 4 病院に所属する看護職員（研修企画者及び主に 3 年目看護職員）
徳永なみじ	愛媛県立南宇和病院	県立南宇和病院看護部から、看護研究指導について相談を受け、主研究者と研究指導者への助言や研究計画書への指導方法について提案した。遠方であることから、年 3 回の指導とし、初回は南宇和病院での面接で、研究の目的と方向性について助言を行った。2、3 回はメールでの計画書への指導とした。	愛媛県立南宇和病院看護師
相原ひろみ	十全総合病院看護部	看護研究の研修について相談を受け、年間計画の立案・研修内容の企画・研修の講師を引き受けて実施した。平成 26 年度から計画の相談を開始し、平成 27 年度まで 2 年かけて、看護研究の指導にあたり、平成 28 年から継続して新しい研修生に指導を行っている。	十全総合病院看護師
野村美千江 入野了士	全国保健師教育機関協議会	平成 28 年第 31 回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会について、企画・運営・資料冊子化を行った。	全国で保健師教育に携わる教員等

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
野村美千江 田中美延里 入野了士	全国保健師教育 機関協議会 四国地区	四国地区で保健師教育に携わる教員を対象として、四国内の先駆的な取り組みについての講話と意見交換によって、教育や研究の発展に資することを目的として教員研修会を今年度初めて企画・運営した。次年度以降は、四国公衆衛生学会開催地の会員校が幹事校として継続開催される予定である。	四国で保健師 教育に携わる 教員等
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県保健福 祉部	県および市町に所属する行政保健師の人材育成に関する研修の課題抽出と企画・運営を支援するとともに、今後に向けて研修の体系化への支援を行った。	医療対策課地 域看護係
窪田 静	愛媛県看護協 会訪問看護 step 1 受講者 グループ	愛媛県看護協会訪問看護 step1 講義終了後、福祉用具活用看護技術演習の実施をサポート。演習を実施した。	愛媛県看護協 会訪問看護 step1 受講者
窪田 静	大洲市役所	福祉用具リーダー養成講座の企画と継続開催、修了者による自主的な勉強会の継続と発展について助言し、参加した。	地域包括支援 センター職員
奥田美恵	愛媛県保健福 祉部	平成 28 年度地域包括ケアシステム人材育成研修会について、西予市において 5 回の研修支援を行った。	南予地域保健 福祉医療職者
中平洋子	日本精神科看 護技術協会愛 媛県支部	愛媛県支部研修会の一環として行われる看護研究発表会に向け、看護研究に関する講演の内容、その後の研究の進め方（段階的な指導の必要性や査読のあり方等）について、教育担当者と共に検討した。次年度も継続予定。	県内看護師
豊田 ゆかり	愛媛県地域保 健研究集会	分科会企画「母子保健の未来を考える ～今、我々に求められているもの～の座長として、企画・進行を担当した。	保健師

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
小嶋理恵子	愛媛県看護協会助産師職能	新人助産師研修の企画および講師として、各期（妊娠期、分娩期、産褥期）における診断とケアについて、および自己の振り返りから自分の成長に気づく講義とリフレクションのファシリテーターを担当。	新人助産師
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
中越利佳	愛媛県看護連盟	愛媛県看護連盟会員研修会の企画、準備、運営に携わった。第1回目は平成28年6月25日、テーマは「看護過程目からウロコの教え方&学び方」第2回目は平成28年11月26日、テーマは「看護アセスメントトレーニング-限られた情報から5秒で言語化」を実施した。	看護師、助産師、看護学生
伊藤美香	(一社) 愛媛助産師会	愛媛県地域少子化対策強化事業の一環である研修会の企画・講師依頼・準備・運営に関わった。研修会は「周産期における母子支援-妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア-」のテーマで実施した。	保健師・助産師・看護師・臨床心理士など
島田美鈴	市立大洲病院	市立大洲病院の指導的立場にある看護職員に対して、看護研究指導の研修について相談を受け、研修内容の企画兼講師として研修を実施した。	市立大洲病院 看護師
松井美由紀	愛媛県保健福祉部管理局医療対策課	「愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業」の企画連絡構成員およびファシリテーターとして40日間研修にかかわり、事例発表会などにも参加し助言指導を行った。次年度は、四国がんセンター主催企画に変更されるが、研修のファシリテーターとして関わる予定である。	県内看護師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開」研修について企画運営の相談を受け、研修講師およびファシリテーターとして関わった。次年度も引き続き、企画も含めて相談役およびファシリテーターとして関わる予定である。	県立病院看護職員
宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
山岡源治	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班世話人として、2回の世話人会に参加し、四国血液検査研修会の企画立案における議論等を行った。研修会は第1回が徳島大学医学部、第2回が高知大学医学部において開催され、指導技師等を務めた。	四国地区の臨床検査技師
山岡源治	瀬戸内研修会 世話人会	第6回瀬戸内血液検査研究会の世話人代表の一人として、H26年8月の世話人会、その後はメール等により研修会の企画立案に関わった。H27年3月末に研修会が開催され、191名が参加し、当日は司会を務めた。	中国四国地区の臨床検査技師
米持英俊	大学コンソーシアム愛媛共同授業	共生について考えるー愛媛から見た生活のあり方ー人は地球上の生命体として外界の環境に適応し他の生命体と互いに共生・共存することで生態系を維持している。実際に個々の細胞は生存して他の細胞と共存・共生すべきか、死滅すべきかを細胞自身で決定する機構が組み込まれている。この機構に深くかかわっているのが細胞内小器官のミトコンドリアである。一説によれば、この細胞内小器官は人の細胞に進化の過程で取り込まれて共生関係に至ったという。得られた共生関係は人に何をもたらしたのか。疾患との関わりを中心に講義を実施した。	愛媛県の大学生
金澤知典	愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科教員	染色体異常で出生した児や、口唇口蓋裂のある児に対する母乳育児について、本学で研修会を開催した。京都の開業助産師の越山茂代氏が来校し、講演していただく予定であったが、受け持ち妊婦の状況で来校できなくなり、急遽インターネットを利用した遠隔研修会の開催となった。そのため、遠隔研修会の会場設営、機器設定等の専門的知識、技術を要することとなり、技術支援を行った。研修会は22名の参加があり、タイムリーな質疑応答により、参加者は満足した様子であった。	母性・助産分野で実習させていた施設の助産師や看護師、本学助産学専攻科学生や卒業生
佐川輝高	砥部町	7月16日ひろた交流センターにて夏休み理科教室を開いた。内容立案、講師を行った。	一般

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
佐川輝高	伊予理科教室 実行委員会	夏休み中全5回の砥部町における理科教室を内容立案、助成金獲得、実行を行った。既に6年行っているが、来年度の助成金申請も既に行っている。	一般
佐川輝高	「青少年のための科学の祭典」、松山大会 実行委員会、 (財)日本科学技術振興財団・科学技術館	11月4～6日に行われた「青少年のための科学の祭典 松山大会」において内容立案、準備、講師を行った。	一般
佐川輝高	「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会実行委員会、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館	11月11～12日に行われた「青少年のための科学の祭典 八幡浜大会」において内容立案、準備、講師を行った。	一般
	保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、 研修の支援合計数		28 件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏 名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
野本百合子	えひめ男女共同参画推進大学等連絡協議会主宰による「女子大学生の働き方への意識調査」への協力	愛媛県内の大学及び関係団体が、主に女子学生への男女共同参画への意識を高めるために、女子学生の就職や社会生活、家庭生活など、働き方に関する意識について、質問紙調査を実施した。県内女子学生の就職に対する意識が明らかになった。	えひめ男女共同参画推進大学等連絡協議会（愛媛県内大学及び男女共同参画に関わる団体）	「ひめじょ就活カフェ～仕事も生活も～将来の生き方を考える～」において報告した。
岡田ルリ子 相原ひろみ	平成 28 年度「地域中核企業創出・支援事業」	広島県内の企業が作成した高精度で手の平サイズの超音波エコーを用いた医療機器事業に対し、看護領域での活用可能性について助言を行った。	広島県内の中核事業者 9 名	超音波エコーを用いた看護教育への取り組みを開始する予定
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の院内看護研究研修に参加した看護師 13 名	院内看護研究発表会および愛媛看護研究学会で発表
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	自治体に働く中堅期保健師の専門能力を育成する研修評価に関する研究	中堅期保健師研修(H25～27 年度)の受講者の専門能力育成を尺度を用いて評価するとともに、直属上司及び研修修了生へのインタビューで職場への影響を評価した。インタビュー内容、分析、抄録・ポスター作成について、共同的に進めた。	愛媛県医療対策課 愛媛県看護協会保健師職能委員会	学会及び論文発表、事業報告書

氏 名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
野村美千江 田中美延里 入野了士	住民と協働する力を養う公衆衛生看護学実習の評価と当該実習を契機とした実習受入自治体における地区活動の評価	「住民との協働」を目的とした公衆衛生看護学実習を卒業到達度を用いて評価した。また、当該実習を通して、受入自治体の地区活動にどのような影響があったか評価した。分析、抄録・ポスター作成について、共同的に進めた。	実習受入自治体保健師及び所管保健所保健師など約 10 名	学会発表
窪田 静	保健師助産師看護師等実習指導者講習会	在宅看護論実習指導案作成	愛媛県看護協会	保健師助産師看護師等実習指導者講習会での発表、報告書
	保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言数			6 件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った	月 1 回（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
鳥居順子	専門職：保健所長	投稿論文の統計手法に関する質問を受けた	入野講師と共同（メール）
野本百合子	専門職：看護師（個人）	県内の病院に勤務する看護職者から、現在取り組んでいる研究に関する相談を受け、研究の方向性などへの助言を提供した。	メール
青木光子	専門職：県内看護職者	県内の病院に勤務する看護職者から、研究方法についての相談を受けた。	対面
野村美千江	薬剤会社：営業職	道路交通法改正に伴う高齢者の認知機能検査ならびに自動車運転の継続・中止の判断について、病院や診療所の医師が知っておくべきことや外来患者とその家族への対応について相談を受け、情報提供した。	来校
窪田静	県内の重度障害者	車いす seating、補装具作成のための評価、判定支援。コミュニケーション機器支援。	訪問
窪田静	県内の重度障害児	リフトと吊り具の選定を行った。	訪問
窪田静	重度重複障害を持つ医師	当事者として、コミュニケーション支援に伴う問題点を発表するための相談にあたり、リハビリテーション工学カンファレンス発表のためのスライド作成、旅行支援、発表支援（代読）を行った。	訪問・メール

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に係る抄録作成について助言を行った。	来校
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に係る抄録作成と査読結果に対する検討について助言を行った。	電話
入野了士	専門職：保健師	保健活動のまとめに関する研究発表について、抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法・について相談を受け、助言とポスター作成方法の技術的支援を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：医師	研究論文における統計的なまとめについて相談を受け、他の疫学専門家と論文内容の検討を行った上、助言を行った。	メール
豊田ゆかり	専門職：看護師	N I C U入院児の皮膚ケアに関する研究についての助言を実施した。	メール・直接対応
小嶋理恵子	外部大学 3 名 看護師 1 名 本学 3 年生 1 名	専攻科のカリキュラム・実習期間等の概要の説明を希望して来学された 5 名に関しては、必要内容を説明した。	直接対応
今村朋子	専門職：助産師	施設で取り組む助産師外来の新人教育用の自己学習教材作成にあたっての助言、資料の提供などを実施した。	メール 直接対応
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	成人 T 細胞性白血病細胞と正常に存在する制御性 T 細胞の免疫学的鑑別点について問い合わせがあり、文献を紹介すると共に、フローサイトメトリーの抗体パネルでキーマーカーとなる抗体に関する情報提供を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	平成 28 年度日本臨床衛生検査技師会中国四国地区医学検査学会の抄録・発表原稿について、助言を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	認定サイトメトリー技術者の認定試験について、問い合わせがあり、助言と過去問に関する情報提供を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (愛媛県の病院)	小児の末梢血塗抹標本に出現した異常細胞について相談があり、異常細胞に関する助言および情報提供を行った。	メール・訪問
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「ESBL 産生菌」に関して質問を受けて説明した。	面談

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「K P C と C R E」に関して質問を受けて説明した。	面談
岡村 法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	神経伝導検査時に混入するアーチファクト対策について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
岡村 法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	脳波検査時に使用する電極の点検方法について相談を受け、助言を行った。	メール・来校
岡村 法宜	専門職：高等学校教諭 (県内の高等学校)	課外活動での理科実験に関する相談を受け、助言を行った。	メール
佐川輝高	砥部町総務課	砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラブ総会後、砥部町の地質と自然災害との関連性について質問を受けて情報の提供を行った。	面談
	保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の 相談対応合計数		29 件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	・愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子・青木光子・岡田ルリ子・徳永なみじ・相原ひろみ・谷本淳子・森敬子	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員）	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	事務局の担当・学習会のための会場確保・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子（総括・企画・運営） 徳永なみじ・相原ひろみ（企画・運営） 岡田ルリ子・青木光子・谷本淳子・森敬子（運営）	愛媛県看護教員 継続教育研修 （愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員）	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった。	研修会の企画立案・外部講師との連絡・調整・研修会でのファシリテータ・司会・会場の調整・提供
野村美千江	愛媛県主任ケアマネジャー3期生勉強会	参加した多くのケアマネや事業所では高齢者の安全な運転を支えるために様々な工夫をしていることが明らかとなった。今後、大学ホームページ等で更なる情報発信に努めることを要請された。	公開シンポジウム「高齢者の安全な運転を支えるために～事例を元に考える」でコーディネーターを務めた。

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会 「ざくざく」 構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約 30 名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会で、15 年目を迎えた。本学での隔月開催により、平成 28 年度は、「情報の可視化」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向けて実践し、6 回の学習会で報告・共有し、討論を行った。グループワークを意図的に取り入れ、幅広い世代や職業分野のメンバーが意見交換ができるように、各回の企画に相談・助言を行った。	学習会内容の企画運営の助言、会場確保
豊田ゆかり	NPO 法人とベ子育て支援団体 ぽっかぽか	砥部町 子育て支援ネットワーク会議参加及び NPO 法人ぽっかぽか活動を支援した。	地域交流センター長として子育て会議の委員
小嶋理恵子・今村朋子・井上明子	継続事例報告論文までの道のり	専攻科卒業生を教育協力者として招き、継続事例報告に向けた準備・まとめ方・プレゼンテーションの実際について体験できる場を設けた。その後、卒業生が在学生の悩みの相談をするなど関係性が形成された	開催責任者として企画・運営
小嶋理恵子・井上明子・今村朋子	大学と臨床の母乳育児合同学習会	今年度は、口唇口蓋裂、ダウン症児の母乳育児学習会を企画・開催し、県内から 20 名、県外から 3 名の出席者が集まった。	開催責任者として企画・運営
枝川千鶴子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験	理事として企画・運営

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中越利佳	NPO エンブリオ愛媛 いのちの懇談会愛媛	円ブリオ基金（1円募金で新しい家族の誕生を支援する）事業の運営、相談、啓発講演会の企画、準備、運営	理事として企画・運営
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 お産の自主グループ	・目的:出産に携わる県内の助産師が日頃のケアの中で悩んでいる内容を抽出するとともに、関連する最新の情報提供を行い、皆で援助の改善策を検討する。・活動内容:年1回の学習会の開催	自主グループ責任者の一人として、学習会の企画・運営、講師として関わった。
井上明子・小嶋理恵子	大学と臨床・専攻科学生 合同の学習会	父親支援について: 虐待・DV 加害者への脱暴力支援活動の経験から 立命館大学 中村正	開催責任者として企画・運営
井上明子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
井上明子	NPO 子育て・発達支援 ネットワークはぐくみ	香川県観音寺市プレパパ&プレママ大学～赤ちゃんがいる生活のイメージ講座～を NPO 子育て・発達支援ネットワークはぐくみが依頼を受け実施。	NPO 法人代表と共に企画
伊藤美香	(一社)愛媛助産師会	(公社)日本助産師会と連携を取りながら、愛媛助産師会立まつやま助産院に事務局を置き、県内全域で活動をしている助産師団体。	理事として企画・運営
伊藤美香	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
山岡源治	専門職:臨床検査技師(香 川県の病院)	成人 T 細胞性白血病細胞と正常に存在する制御性 T 細胞の免疫学的鑑別点について問い合わせがあり、文献を紹介すると共に、フローサイトメトリーの抗体パネルでキーマーカーとなる抗体に関する情報提供を行った。	メール

氏 名	支援した会の名称と構成 メンバー	支援した会や団体の特性（目的、 活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香 川県の病院）	平成 28 年度日本臨床衛生検査技 師会中国四国地区医学検査学会 の抄録・発表原稿について、助言 を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香 川県の病院）	認定サイトメトリー技術者の認 定試験について、問い合わせがあ り、助言と過去問に関する情報提 供を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師（愛 媛県の病院）	小児の末梢血塗抹標本に出現し た異常細胞について相談があり、 異常細胞に関する助言および情 報提供を行った。	メール・訪問
佐川輝高	砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラ ブ	砥部町における災害時に砥部町 等行政と連携し、アマチュア無線 を利用して被害情報収集、復旧支 援に参画する。総会を 1 回、研修 会を 2 回、親睦会を 1 回行った。	賛助会員として活動に 参加、助言
	患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数		21 件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動 編集委員会委員として論文査読委員の選定、結果判定、査読システムの整備等 災害を受けた看護学生の修学継続や会員の研究継続支援	理事 編集委員・査読委員 大規模災害支援事業委員会委員長
中西純子	日本看護研究学会 中国・四国地方会	地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進（学術セミナー）、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	副会長 30周年記念誌編集委員長
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	代議員
中西純子	日本看護診断学会	看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	代議員 学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	愛媛県看護部長・教務責任者協議会	県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとともに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。 年1回の総会および年2回の研修会開催	理事・監事
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	平成 28 年度 介護職員等による たんの吸引等のための 研修実施委員会（特定の者 及び不特定の者）	研修の企画、運営	検討委員
中西純子	看護職員確保・県内定着 推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を 推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成 28 年より設置された。	協議会委員
中西純子	高知県立大学 看護研究倫理 審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、 外部委員として参加	外部委員
中西純子	高知女子大学 看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学 術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年 1 件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	第 31 回日本 がん看護学会 企画委員会	学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員
草薙康城	愛媛県産婦人 科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、 女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健 の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（学 術、がん対策 担当）、編集委員
草薙康城	日本妊娠高血 圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を 図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医 療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とす る。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人 科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の 認定を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	松山圏域活性化戦略会議	松山圏域における将来へのビジョンを作成する。	専門委員
草薙康城	愛媛県医師会医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会加わる。	支援医
草薙康城	順風会	がん検診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における県委員会委員	委員
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の県委員会委員	委員
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	西予市における地域包括ケアシステム構築を推進するために発足する支援部会	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会委員	都市計画法第 78 条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う	委員
鳥居順子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及等の事業の発展を図り、以て公衆衛生の増進に寄与するとともに、四国四県の関係機関の有機的連携を図ることを目的とする学会	監事
内藤真帆	日本言語学会	言語学の発展を図り、広く知識の交流に努める。主な事業は、学術集会の開催、学会誌の発行、国際的な研究協力の推進。	事務局委員
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的として活動している。主な活動は、月 1 回の定例会と年 1 回の学術集会の開催、学会誌の発行等である。	理事長 第 26 回学術集会企画・実行委員
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年 1 回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催しており、その中で、教育講演「実践に活かすための看護研究」を実施した。	教育担当理事 第 36 回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	新人職員研修推進協議会 (愛媛県看護協会)	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	日本看護学教育学会	看護学教育の向上を図り、看護学の発展に寄与することを目的とし、看護学教育を行っている大学、短期大学、養成所、高等学校など多様な看護基礎教育機関に所属している教員や大学院教育に従事している教員や看護実践家などが活動している。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	査読委員
野本百合子	千葉看護学会	看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進するための組織として設立された。現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
岡田ルリ子	社会福祉法人「南風会」	精神障害者の支援活動 年間活動計画の立案と支援 監査 等	評議員
徳永なみじ	看護生理学研究会 (看護生理学領域の研究者)	看護生理学研究を手掛ける看護学研究者相互の研究交流を図り、看護学の、特に生理学的研究水準の向上に貢献するとともに、広く学術の成果を教育と実践の名に還元することを目的としている。	企画運営委員
徳永なみじ	日本看護研究学会中国・四国地方会第30回学術集会	母体である日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会である。中国・四国地方会は、中国・四国地方における学術集会の開催、学術講演会の開催等の事業を通して、地域に根差した自由な発想を重視し、地域から発信する看護の革新に向けて重要な役割を果たしている。	企画・実行委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
徳永なみじ 相原ひろみ	愛媛県立医療 技術短期大 学・愛媛県立 医療技術大 学・大学院同 窓会 木連会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（書記）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	副会長
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の4領域により構成されるものと捉え、4領域の観点から地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	査読委員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	査読委員
野村美千江	大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会	文部科学省高等教育局医学教育課主催。学士課程における看護学教育のモデル・コア・カリキュラムを策定し、全国の看護系大学が平成31年4月にスタート、また、評価方法についても検討する。	委員
野村美千江	愛媛県後期高齢者医療広域連合	愛媛県後期高齢者医療広域連合（県下20市町が加入）が運営する独立保険制度による保険料、医療給付、保健事業の適切性について意見交換を行う。	懇話会委員
野村美千江	砥部町国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	会長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江 入野了士	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築するにあたり、生活支援・介護予防サービスについて地域の実態や課題に関する意見・提言の聴取。	委員
越智百枝	精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	愛媛県自殺対策計画策定委員会	平成 28 年 7 月から委員長の委嘱を受け、愛媛県自殺対策計画の策定を行った。	委員長
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民のの自殺対策の推進を目的とする。今年度計画の事業の実施評価を行った。	委員長
越智百枝	日本看護研究学会評議員	平成 26 年 4 月より評議員の委嘱を受け、評議員会に参加した。また、中国・四国地方会の運営委員会で監事の委嘱を受け、会計監査を行った。	評議員、地方会運営委員（監事）
越智百枝	日本看護研究学会査読員	平成 29 年 8 月に開催される日本看護研究学会査読委員として学会発表 5 件の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を 2 件行った。	査読委員
越智百枝	高知女子学会査読委員	平成 28 年度査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を 2 件行った。	査読委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする学会。	学会誌査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
窪田 静	愛媛県社会福祉協議会第3回えひめ福祉用具フェア実行委員会	愛媛県社協が主催し、県内の主要な医療福祉専門職職能団体等が後援する「えひめ福祉用具フェア」の企画運営の詳細を決定し、当日の運営を担った。	委員、作業部会長
窪田 静	三輪書店作業療法ジャーナル	1年間に発行される雑誌12冊と特大号1冊の記事を論評し、企画を提案する。	編集同人
窪田 静	リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト 2016	一次選考（書類審査）、二次選考（展示と面接）において、一般部門、学生部門それぞれの応募作品について選考会にて審査を行う。二次選考に残った作品に対しては、選考委員で分担して論評を執筆する。	選考委員
窪田 静	公益財団法人テクノエイド協会福祉用具シリーズ住宅改造編小冊子作成委員会	福祉用具法指定法人である公益財団法人テクノエイド協会が紙媒体を無償配布する（ホームページでのダウンロードもできる）小冊子、福祉用具シリーズ「住宅改造編」を、他の執筆者と論議を重ねながら執筆した。同時に、福祉用具プランナーテキスト改訂作業も行った。	委員
窪田 静	西予市地域包括ケア人材育成事業 人材育成研修会実施ワーキング	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築に必要な介護専門職の育成にかかわる研修会の企画と講師、視聴覚教材の制作	WGメンバー、協力員
奥田 美恵	西予市地域包括ケア人材育成事業部会	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築に必要な介護専門職の育成にかかわる研修会の企画を行った。	委員
奥田 美恵	高知女子学会	看護の実践・教育・研究の発展に貢献する	査読委員
入野了士	愛媛県看護協会 保健師職能委員会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施等を行った。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
坂元勇太	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（書記）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
豊田ゆかり	松前町国民健康保険運営協議会	松前町の国民健康保険予算・保険給付内容等に関して委員として協議に出席した。	委員（学識経験者）
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾患児童等地域支援協議会	協議会の委員長として議事進行・協議を行った。	委員長
豊田ゆかり	地域包括ケアシステム人材育成プログラム開発会議委員・人材育成部会委員長	2年目の活動であり、地域包括ケア人材育成に関わる会議に出席・会議の企画・進行・研修会企画・実施を担当した。	委員及び委員長
豊田ゆかり・枝川千鶴子・藤原紀世子	第15回日本小児がん看護学会学術集会	平成29年11月に松山で開催される学術集会の看護プログラム委員として、看護のメインテーマの検討、学術集会の概要及びプログラムの検討等を行った。	看護プログラム委員
小嶋理恵子	愛媛県看護協会・助産師職能	2017年度年間活動計画立案検討・2016年クロップミックス研修運営・ファシリテーターを担当	助産師職能
枝川千鶴子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
枝川千鶴子	リレーフォーライフ愛媛実行委員	リレーフォーライフ愛媛の実行委員として、企画運営に参加した。	実行委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中越利佳	一般社団法人 愛媛助産師会 広報委員会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行	広報委員
中越利佳	愛媛県看護連 盟教育支部	愛媛県看護連盟会員研修会の企画、準備、運営および県内看護教育機関の取りまとめ	役員
中越利佳	NPO エン ブリオ愛媛	いのちの教育講演会の企画、準備、運営に役員として携わった。	理事
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	愛媛助産師会の運営 ・年間活動計画の実施と次年度計画の立案を行った。	理事
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 広報委員会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理を担当した。 ホームページ作成、メール配信システムの整備を行った。	広報委員長
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動を行った。	東予地区役員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	県内1カ所の助産所機能評価を行った。	機能評価員
今村朋子	日本助産学会 第31回学術 集会実行委員	徳島で開催の学術集会の当日実行委員として、座長の役割や学会の運営に携わった。	実行委員
今村朋子	愛媛県立医療 技術短期大 学・愛媛県立 医療技術大 学・大学院同 窓会 木連会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（会計）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
井上明子	日本助産学会	助産学に関する研究の推進・知識の普及により助産学の発展を図り、我が国の母子保健の向上に寄与する。 主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行などを実施した。	学会誌査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
伊藤美香	(一社)愛媛助産師会	(公社)日本助産師会と連携を取りながら、愛媛助産師会立まつやま助産院に事務局を置き、県内全域で活動をしている助産師団体の活動を実施した。	副会長
島田美鈴	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会へエントリーした一般演題の査読を行った。	第31回日本がん看護学会学術集会査読委員
島田美鈴	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会の一般演題 口演発表「第50群 がんリハビリテーション、サバイバーシップ」の座長を行った	第31回日本がん看護学会学術集会座長
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価	委員
松井美由紀	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価	企画連絡会構成員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	副実行委員長
松井美由紀	第31回日本がん看護学会	第31回日本がん看護学会学術集会の研究発表内容の査読	査読委員
宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員
西森旬恵	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事（会計）として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
江崎ひろみ	日本健康体力栄養学会	体力栄養の知識と技術の進歩・普及発展のために、体力と栄養の関係を研究・研修し、その成果を健康を目指した運動及び栄養の実践活動に応用し、国民の健康増進及び成人病の一次予防に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会四国支部の運営に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会、秋期大会の学術内容の企画に参画した。	コア・プログラム委員，プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行った。	学会誌査読委員
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動している。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席	精度管理専門委員会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立された。 中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員
玉内秀一	日本鉄鋼協会(評価・分析・解析部会)	工学系と生物学系の連権研究としてバイオフィルム被覆によるスラグ新機能創出をテーマに研究部会の活動を推進するために人と人との交流の接点役として活動する。人を取り巻く環境や生活を営むにおいて問題となっている課題を改善する事を目的とし学術集会の開催、学会誌の発表を行う。	幹事
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	監事
北尾孝司	日本臨床検査医学会中国四国支部	臨床検査医学(臨床病理学)に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学(臨床病理学)の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与する	評議員
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野島一雄	日本臨床検査技師教育協議会	臨床検査技師の教育機関の資質向上を諮るため、情報交換、教育研究活動等を行い、臨床検査技師教育水準の向上と保健福祉に寄与することを目的とする。臨床検査に関する教育普及、調査研究、学術集会の開催、学会誌の発行、国内外における関係諸団体との交流等の事業を行う。	評議員
野島一雄	日本時間生物学会	時間生物学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
野島一雄	日本リハビリテーション医学会	第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会	座長
金澤知典	一般社団法人電気学会 非整備環境現場に駆動されたパターン認識技術の応用 協同研究委員会	パターン認識技術とその応用に関し、特に十分な条件整備ができない環境の現場において国内外で開発されている新しい技術や手法、人が関係する環境全般でのパターン認識の応用に必要な技術、さらに人間の視覚感性とパターン認識技術の応用について、調査・研究を行うことを目的とする。	委員
金澤知典	一般社団法人電気学会 知・技の伝承と複合現実型 実応用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの五感センシング、マイニング、モデリング、レンダリング、インタラクション、訓練・伝承法や、新たな活用法等といった、知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員
徳原康哲	香川県臨床検査技師会 一般検査研究班	一般検査業務に関する技術の向上や知識を深めるため、香川県内の研修会やセミナーの企画・開催	幹事
佐川輝高	任意団体 伊予理科教室実行委員会	砥部町にて夏休み理科教室を開催している。企画立案、内容立案、助成金獲得、講師を行っている。	代表
	行政や各種関係団体の理事・委員等の活動合計数		117 件

V 学生の地域交流 活動報告

V学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績

(1) ボランティア登録数 個人登録 52人、 団体登録 3団体 (平成29年3月現在)

(2) ボランティア募集のメール発信呼びかけ件数

外部団体からの要請および地域交流センター事業 13件

(3) ボランティア活動の実績

①学生ボランティア登録制度利用の実績 (参加のあったもの)

学生ボランティア登録制度利用の実績 (平成28年度)

	名 称	主 催	時 期	場 所	参加 学生数	活動の内容
1	愛媛県障害者 スポーツ大会	愛媛県	5月22日 (日)	愛媛県総 合運動公 園	25名	大会運営補助 (開閉会式、競 技進行指揮、記 録記入、等)
2	媛っこすくすく 愛キャンプ	ラ・ファミ リエ	8月6日7 日(土日)	南宇和郡 愛南町	5名	小児慢性疾病を もつ参加者とそ のきょうだいの サポート
3	「子どものいの ちと体を守るお 仕事体験」イベ ント	ラ・ファミ リエ	8月21日 (日)	エミフル M A S A K I	10名	お仕事体験ブー スのお手伝い (看護師、助産 師、臨床検査技 師ブース)
4	「秋の全国交通 安全運動」キャ ンペーン	松山南警 察署	9月21日 (水)	松山南警 察署	10名	愛媛県立医療技 術大学生参加に よる交通茶屋
5	リレー・フォー・ ライフ (実行委員会)	RFL2016 えひめ実 行委員会	10月17日 ～18日 (土日)	城山公園	5名	実行委員会のメ ンバーとして企 画から参加

6	リレー・フォー・ライフ (リレー参加・ボランティア)	RFL2016 えひめ実行委員会 (地域交流センター事業)	10月17日 ～18日 (土日)	城山公園	ボランティア 40名 リレー47名 計87名	24時間リレーウォークほか
7	世界エイズデー 中予地区 街頭キャンペーン	中予保健所	11月27日 (日)	いよてつ 高島屋前 他	5名	横断幕にて世界エイズデーPR、

ボランティア参加学生数(のべ) 147名(リレー・フォー・ライフを含む)

＊なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボランティアもある。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書 88 ページに掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル 5 つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ大作戦について紹介する。

自治会主催 クリーンアップ大作戦

12月3日(土)に、クリーンアップ作戦を行いました。総勢 70 名程の教職員さんと学生さんが参加してくださり、普段お世話になっている地域や学校を清掃しました。

地域周辺のゴミ拾いをしている際に、「ありがとう。」と手を振ってくださった方もいて、やりがいを感じながら清掃することができました。

これからも、私たちが生活している環境を大切にしながら学校生活に励みたいと思います。



STS サークル

部長 西谷 萌

私たち STS サークルは愛媛県内でボランティアを行うサークルとして活動をしています。学生それぞれが松山市福祉協議会からの「おせったい通信」や、大学からのボランティア活動の募集、先生方からの依頼、地域のボランティア団体からの依頼などから、自分たちが参加したいボランティアを探し、自分たちのペースに合わせ参加を行っています。平成 28 年度の活動内容としては以下の通りです。

- ・松山市主催 サイクルチャレンジ 2016 in 競輪場 での運営補助
- ・第 11 回 愛媛県障害者スポーツ大会 での運営補助
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ での運営補助

ボランティア活動を行う中で、多くのボランティア関係者の方々との出会い、そして活動を通しての学びがありました。人と関わることの楽しさ、病態や異なる世代への理解、コミュニケーションスキルなど、今後に活かすことができる多くの学びを得られたと感じています。また、自分たちの将来の目標や自分の糧になるものを見つける貴重な場にもなったと感じています。

今後もボランティア活動を通し、社会貢献、自らのスキルアップを図っていきたいと考えています。ボランティアへのお誘い、お待ちしております。



第 11 回 愛媛県障害者スポーツ大会



リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ

手話サークル Sign

部長 門田 鮎美

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に、講師の方から手話を教わっています。数年後、医療従事者として患者さんに関わる際、コミュニケーションツールの 1 つとして手話を使えるようになるために、日常的な会話から、医療現場で使える専門的な医療手話まで、幅広くご指導いただき勉強しています。

5 月に、指定障害福祉サービス事業所 共同作業所「なかよし村」で行われる「なかよし村祭り」で、音楽に合わせて手話をする、手話コーラスを披露する機会をいただきました。手話コーラスは毎年、学生祭で披露していましたが、学外で活動するのは初めての経験だったため、部員一同緊張しつつ挑みました。緊張のあまり固くなっていた私たちを、なかよし村のスタッフの方々をはじめ、利用者の皆さんやそのご家族、祭りに来た一般の方々は温かく見守ってくださいました。曲と一緒に歌ったり、アンコールを求めてくださったりと、その温かい対応に、緊張を上回るほどの喜びと楽しさで、胸がいっぱいになりました。手話コーラスを通じて学外の方々と関わることで、様々な方々との交流の機会ができ、社会勉強として得られるものがとても増えると学んだことから、これからは積極的に学外での活動を増やしていきたいと思いました。

学生祭で例年通り披露した手話コーラスでは、砥部町内の方々、部員のご家族の方々からたくさんのお褒めの言葉をいただき、今までにないほどの達成感を味わうことができました。

週一回一時間という限られた時間で活動する私たちの手話能力は、微力なものに過ぎませんが、地域の方々の笑顔に貢献するため、これからも部員一同邁進してまいります。



Peer サークル

部長 武田 怜奈

Peer サークルは、愛媛県内の高校や大学等で活動を行っています。Peer には「仲間」という意味があり、同世代の人々に、私たちと同じ目線・同じ立場で「性」について考え、自分自身と向き合ってもらう時間を共有します。また、「自分自身のことを思いやり大切にすること、同時に相手のことも大切にすること」の重要性を実感してもらえるようにしています。

「性」という言葉を聞くと、「恥ずかしい・人前では話しづらい」というマイナスなイメージがあることが多く、抵抗を感じる人もいます。しかし、私たちは活動を通して、「性」とは誰にとっても大切なものであり、自分自身からは切り離せないものであると感じています。また、「性」に関する悩みを持っている人が多いことも事実です。私たちはその悩みを友達のように相談できる相手でありたいと思っています。同世代だからこそ打ち明けられることもあるのではないのでしょうか。それこそが Peer サークルの良さでもあります。活動をさせていただいている中で、私たちが学ばせていただくことも多く、対象の生徒や学生と一緒に成長できる場でもあります。

私たちは、先輩たちから受け継いできた Peer サークルに誇りを持って活動をしています。より多くの方々にこの活動を知っていただき、活動の幅を広げることが出来るようにこれからも精進していきます。



ピアエデュケーション(高校生対象)



ピアトーク(大学生対象)

医技タット

部長 尾崎 夢

私たち医技タットは、H26年度設立の災害医療ボランティアサークルです。「東日本大震災に学び、南海地震に備える」という理念のもと、日々活動しています。昨年度に引き続き東北派遣を行い、4日間の日程で福島を訪れ福島県立医科大学の災害医療セミナーに参加したり、仮設住宅での傾聴のボランティアを行ったりしました。また、今年度発生した熊本地震の支援のため、街頭募金を行いました。他にも実践的な技術や知識を身につけ、実際の現場でいかすために、災害時に役立つBLSや防災士などの資格取得も積極的におこなったりしました。学生祭では砥部消防署さんにご協力いただいて「応急手当普及」の講習を行ったり、東北派遣、熊本地震の展示を行ったりしました。今まで学んだことを振り返り、外部に発信する良い機会となりました。今後も、ボランティアや資格取得を継続しながら、地域や他大学の方々と関わる機会を多く作りたいと考えています。そこで、活動を通して学んだことを南海トラフ地震に備えるために、外部に発信したり、啓発活動を行ったりして、地域に根ざした活動を行っていきたいと考えています。



フラサークル ティアレ

部長 林 あかね

私たちフラダンスサークルティアレは毎週月曜日に活動を行っています。月に1度講師としてフラダンスの先生に来ていただき、レッスンを受けています。外部の活動としては、毎年学生祭でフラダンスを披露している他、介護施設等の方から声をかけて頂いたときに、施設の方でフラダンスを披露させていただき、利用者の方々との交流を行っています。

平成28年度には、4月24日にひろた感謝祭でのボランティア及びフラダンスの披露、7月3日に麻生児童館でフラダンスの披露及び利用者の方々との交流、9月18日に高尾田集会所での敬老会にてフラダンスの披露、11月20日に松山大学学生祭でフラダンスの披露をさせていただきました。

全国の大学にフラダンスサークルは数多く存在しますが、地域との関わりの強い医療技術大学である本学では、介護施設、老人ホーム、デイサービス、児童館や集会所など地域住民の方々と交流できる場を中心に活動をしています。施設の方でフラダンスを披露する際には観覧者の方とフラダンスを一緒に踊るようにしています。フラダンスを一緒に踊ることで、観覧者の方もただ踊りを眺めているだけでなく、実際に踊りに参加することができ、毎回「楽しかった」「また来てほしい」等の嬉しい言葉を頂いています。

私たちのフラダンスはまだまだ未熟ではありますが、先生のレッスンを受け、踊りの技術を上達させていき、地域の方々の笑顔を沢山生むことができるようにこれからも精進してまいります。



VI 地域への施設開放 状況

Ⅵ 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）がおこなっている、ストレッチ教室の火曜教室開催にあたり、施設開放をおこなっている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～9月 10：00～11：30

10月～3月 11：00～12：30

開催回数：年間 39 回

利用者：砥部町住民

利用人数：30 人程度/回、延べ人数 1,157 人

<参考資料>



VII 參考資料

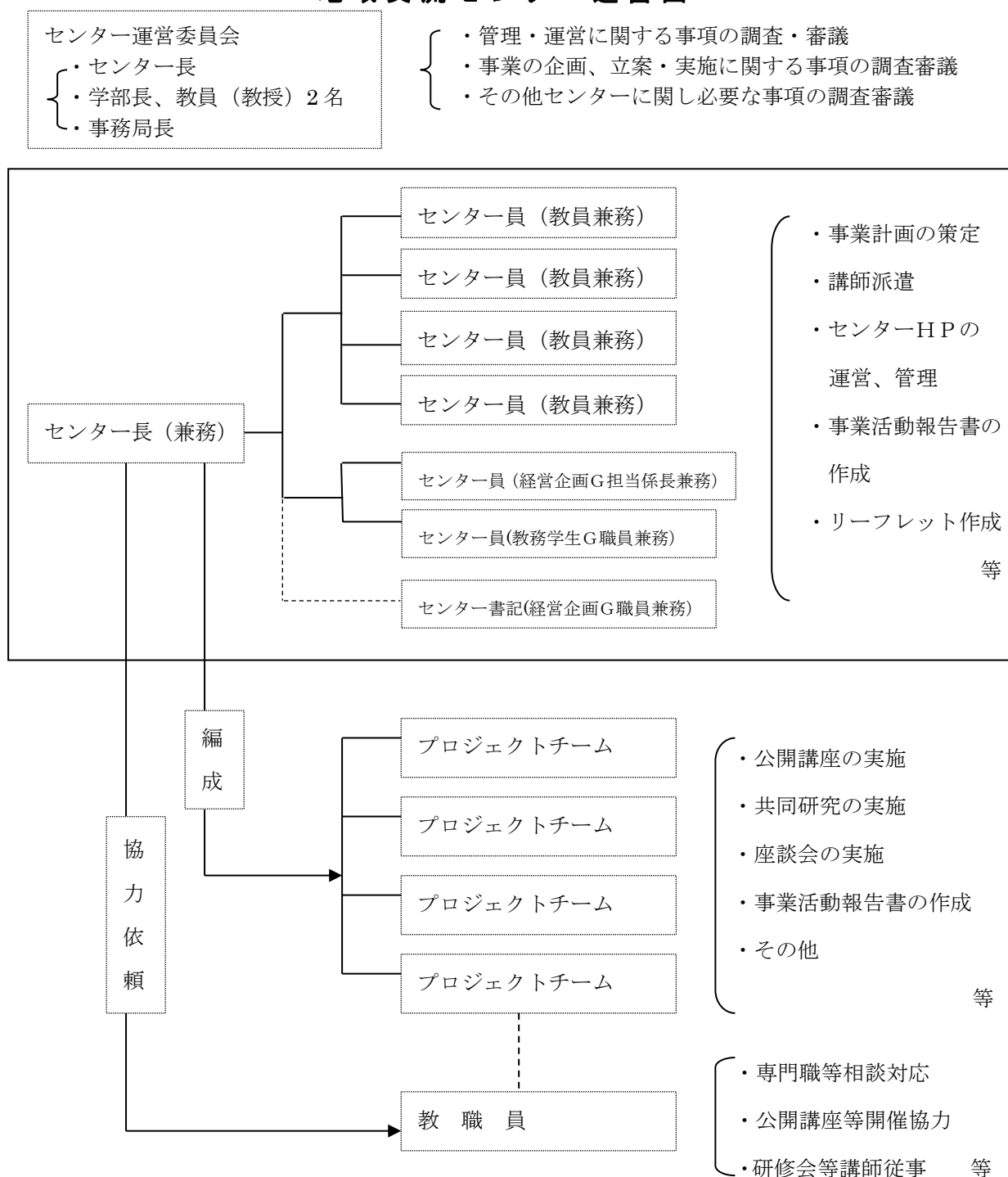
VII 参考資料

地域交流センターの組織（平成 29 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 6 名（教員 4 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地 域 交 流 セ ン タ ー 運 営 図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。

3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。

3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

（任期）

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（運営）

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正 2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

